

平成24年第1回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成24年3月8日（木曜日） 午前10時開議
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	塩井早苗	議員	2番	原義裕	議員
3番	松村潤	議員	5番	神谷長平	議員
6番	半田晴	議員	7番	坂井孝次	議員
8番	大野貞夫	議員	9番	田部井健二	議員
10番	小沢泰治	議員	11番	岩崎律夫	議員
12番	小島幸典	議員	13番	立沢稔夫	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
大竹喜代子	教育長
中村紀雄	総務課長
小倉章利	企画課長
半田実	税務課長
神山均	住民課長
相場利夫	生活環境課長
諸井政行	保険年金課長
小島哲幸	福祉課長
小島敏晴	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長
横山正行	土木課長
小島靖	都市計画課長
飯塚勝一	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
河内登	学校教育課長
大舘一	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開議の宣告

○立沢稔夫議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○立沢稔夫議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続きまして行います。

発言を許可します。

◇ 小 島 幸 典 議 員

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

[12番 小島幸典議員登壇]

○12番 小島幸典議員 皆さん、おはようございます。12番、小島幸典です。議員の責務により、勇気と奮起を持って通告どおり一般質問をいたします。

きょうは3月8日、あと3日で東日本大震災発生から、はや1年となります。震災の爪跡は大きく、深く、その震災のもたらした高さ約30メートルの津波と福島第一原発での事故等で、皆さんもテレビとラジオ、またはいろいろのメディアのほうでご承知のとおりと思います。その中で、福島県、岩手県、宮城県の復旧復興は道筋がつかず、いまだ1つの町である南三陸町では、約300人の行方不明者が出ていて、豪雪の中での仮住まい、アパート、公営住宅を含めての15万人の人たち、そして仮設住宅住まいの11万人の人たちの生活の中では、ストレスがたまり、いろいろの心痛、時間がたてばたつほどの心の痛み、そういう心の病気がふえることが心配です。また、震災から出てきたそういう廃棄物ですね、皆さん知ってのとおり廃棄物が災害廃棄物として、またこれも大きな日本国民の絆をいかに発揮していけるかと、そういうそのごみの処理の量、これは通常量の11年分、または19年分と言われていています。宮城県、岩手県等の人たちの心の痛みは、どんなことかなとはかり知れないものがあります。そして、両県では緊急的に仮設焼却炉をつくり、24時間連続運転を行っているが、処理能力が不足していること、全国でもし応援していただければ3年以内での瓦れき処理が可能だと言われていています。これは、新聞紙上で知ってのとおりであります。両県から搬出されるものは、安全の確認されたものです。一日も早く、群馬県を含めて、また大泉町、千代田町、邑楽町の清掃センターで災害廃棄物を受け入れて、震災復興に協力できるよう、早急に道筋をつけることを町長に要望します。現地では、いまだ復興は81%進んでいない。81%も進んでいないということは19%しか進行していないということなのですね。それをテレビ報道で2日前にされました。

また、昨年8月には、タイ国のバンコクの大水害が皆さん記憶にあると思います。日本企業が、なんと約130社も行っていたとは、私も驚きました。その被害をこうむった日本企業は、日本経済

に大きな混乱を製造業にもたらしております。同時に、先ほど議長が話されたように、為替ルート、円高が進行し、その大きな損害は、各企業の決算を見ればわかるとおり、大きなマイナス、赤字決算を生んでいる状態であります。日本の有名自動車メーカー数社の自動車ラインが稼働しなくなってしまったと。輸出を目的としてお金を稼いでいる日本の経済状態から見ると、非常に先行きも不安な毎日であります。

そして、先ほど話した外国にどんどん、どんどん会社が出ていくことは、日本国内の工業の空洞化が進み、若い人たちの職場が少なくなって、高所得者と低所得者の差が広がり、税収の落ち込みや、また生活苦に直面することによって犯罪が多くなることが心配であります。1つの例として、これ今日本じゅうで社会問題になっている振り込め詐欺、おれおれ詐欺、これは1つの一例でございます。そういうことをかんがみれば、功成り名を遂げた人たちが、もっとちょうだいではなく、どうか使ってくださいと配分をする心温かい行動をとり、人々に夢と希望を抱ける言動と実行力を表に大きく出して、トップセールスをマニフェストに掲げている町長に私は期待しています。

という流れの中で、これから一般質問をいたしますけれども、今話した町民のため、町ですから、町の町長ですから、町民のためを一番念頭に入れ、またこれはさきの新聞にも出ていますけれども、とにかく労働者の約20%以上の人たちが1年間一生懸命働いて200万円前後の年収しか得られないと、そういう実情が今日本経済に生まれているわけです。そういうことを考えて、第1番の一般質問に入らせていただきます。

一般質問の1番の私の質問事項では、中野小学校プール移設について、これは町長が今回の選挙前に、こういう町民に対しての公約というのですか、と資料に出ています。何が出ているかといいますと、中野小学校、長柄小学校のプールが老朽化し、使い勝手も悪いと言われているという町民の訴えに、両校のプールは老朽化していて、また、利用するために道路を横断する必要があり、大変危険であると。早期の利用を目指し改築を進めたいと、そういう回答をこの資料では出しています。私も前に1度あそこの小学校の校舎からプールに行く途中、過程の道のりというか、そんな遠くはないのですけれども、でも町道がありまして、そして公民館、また商工会があるので、時間帯によっては車がすごく通ります。そして、今車のマナーが一時よりもすごく落ちているように私見えます。そういうことを考えると、非常にこれは事故が起きてからでは取り返しのつかないこととなります。そういうことを考えると、この辺のプール、また子供の安全、そういうことをどうこれから対処していくか、その辺の町長のお考えを聞きたい思います。よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 老朽化した中野小学校のプールの移設の問題でありますけれども、長柄小学校のプールも同様に老朽化をしております。したがって、中野小学校のプールについては、過日の定例会の中でも同様の趣旨の質問がありましたことは、十分承知しておりますし、私もそのことを十分

認識しておりますので、移設に向けてこれから研究し、実施に向けていきたいというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 実施に向けていくという表明でありますので、非常に安堵はしていますけれども、こういう実施の中、これから検討とか、そういうのを入れていくと思えますけれども、私も実はきのうちょっと、質問するからにはと思って、前から見ていましたけれども、現場を見てきました。そういうことで、各学校のプールは、とにかく露天ですね、今のそういう流れの中では、雨水だとか、降れば自動的に一定の量以上はふえないと思っています。でも第2問のほうで話してはならないのですけれども、今非常にそういう自然環境の流れのことが叫ばれています。そういうことを考えることになることと、それと、12月の議会でも私話したけれども、1つの施設、1つの教材、そういうのを年間を通していかに利用できるか、効率ですね、そういうことを考えると、プール夏だけですね。だから、そういうことをあわせて、冬は全部水をもし取った後は、ローラースケートができるとか、これは1つの例ですよ。それと、子供たちが自由に、今ダンスとかそういうのがはやっていますけれども、板を張ればそういう遊技場にもできるとか、多目的な利用をできる施設に変えていく必要があるのではないかなと。スポーツ団体に使ってもらってもいいと思うし、その辺の考えを教育長のほうからどう思いますか。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

プールにつきまして多目的に、冬はローラースケート、またはダンスなどのいろいろな面で使えたらということですが、学校のプールの施設ということで、子供たちが学校教育として使用する場合には、やはり今新しい教育課程では授業時数も大変ふえまして、非常に現場は忙しく、教育課程にないものをたくさん取り入れていくということは、かなり難しい状況も出てきております。そういうことで、ほかの団体に多目的に使えるようにということであれば、本当にまたそこは検討の余地があるかというふうに思います。

今放射能の問題とかありまして、やはり屋根つきとか、そういうことも1つの課題としてあります。また、中野小学校のプール、長柄小学校のプールも同じなのですけれども、すぐ近くに大木がありまして、落ち葉の処理なども本当に大変な状況にあります。承知はしておりますけれども、また一面では、子供たちがさんさんと輝く太陽の光のもとで日焼けして、健康的に泳ぐということも教育的には1つの利点ということもありますので、総合的に考えさせていただくということで、やはりプールにつきましては、移転新設につきましては、早目に町のほうとも相談しながら考えていかなければならないというふうには思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 教育長のほうから説明受けましたけれども、とにかく人間は考える芦なのですね。太陽を、本当に大事です。これは、植物が育つ上には、光、太陽がなければということ、私も農業高校の学びから、それは重々知っています。であれば、屋根を開閉できるようなシステムにすればいいのですよ。もう一つは、取り外して、夏は全部取り払う。冬は、ちゃんと風をよける、そういうあれをつくる。そうすれば雇用が生まれますよね。そこで働く、要するに秋になればあそこで働けるなど。また、ある意味ではボランティアが集っていろいろ話をしながら作業をする。これも、ある意味では社会教育です。そういうことを複合的に物をこれから考えていかないと、金太郎アメリみたいに全部同じということはおかしいと思うのです、教育上。やはり教育長が言っている太陽の下で、これは大事なことです。そういうことの流れの中では、やはり物事をだからこそ政治、行政の中では、今特区というのができます。規制にはまらないで、その地域、またはその部門に政治、または公権力の介入を少なくできる、そういうシステム、邑楽町のトップが、私はやっていないと思うのです。はっきり言って勉強していません。だから、教育長に私はお願いするということは、本当にちょっと身が引けますけれども、教育のプロなのですから。でも、こういう議会は、本当に私はすばらしいと思います。私みたいな人が、いやしくも教育長にこういうお話ができるのですから。教育部門というのは独立機関で、なかなかこういう機会がないと話ができないですよね。お宅にお伺いするわけにもいかないし、プライバシー、人権、そういうこともあるし、本当は行きたいです。でも、そういうことを議員として看板持っている人はわきまえてはいけないと思いますよ、公私混同しては。そういうことを考えれば、邑楽町の中野小学校のそういう中で、今度は教育委員というのが選任できました。教育委員の中で、そういう話があって、上から抑えつけるのではなくて、共有、要するにお互いに同じような目標を持った中では、いろいろの意見があって、そして弱者、要はお金のある人は、これからどんどん海外のリゾートに行けると思いますよ。けれども、お金のない人、貨幣経済ですから、お金のない人は、行きたくても行けません。それをできるだけ地域社会に、いかに人を育てること、人間を育てることを考えれば、規則規則ではなくて、本当に人間が生きていく上には何かということが、私は教育だと思います。そういうことを考えれば、本当にすてきなすばらしい職業だと私は思います。でもそれはだれでもできる仕事ではありません。資格だとか、そういう今までの経歴を重ねてきた教育長、町長、そういうことを踏まえてももっともっと、ある議員が私のところへ来て、「一生勉強だよ、小島さん」て。うちのせがれにもそういうふうに言ったそうです。そうしたら、うちのせがれは感激していました。「確かに一生勉強だよな」と。そういうことを考えて、教育長になってから勉強ではなくて、規則の中でとまってしまうのではなくて、もっともっとみんなで勉強する雰囲気をつくってもらいたい。その辺を教育長、どうですか。ひとつお答え願いたい。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

私もどちらかというふうなふうに物を柔軟に考えて、人間を大事に、そして一生懸命勉強しながらやっていきたいというふうなふうに考えているほうなので、本当に小島議員のお気持ちは理解できると思いながら聞いておりました。それで、これから学校教育、社会教育をやっていく上では、一生懸命さらに勉強を重ねまして、子供たちにとって、またはこの町民にとってどうしていくことが教育行政上幸せにつながっていくのかということを生懸命考えながら柔軟的に対応していきたいと思っております。プールに関しましても、一面的にとらえることもなく、財政もありますので、総合的に広く、多角的に物を考えながら対応していけたらいいと思っておりますので、そのときには、またお知恵をおかりできればというふうに思います。よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 教育長から最大限のメッセージをもらったと思います。このことに関して、町長のほうはどのような見識があるかお伺いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私も日々研さんの中で、将来に向かってよりよい町ができるような考え方でこれからも進んでいきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長も教育長と同じようにいろいろの意見を聞いて、これから実行していこうというような理解を私はしていますので、本当に心強い限りであります。これは、やっぱり子供の成長、それと町民の心のオアシスというのですか、やっぱり子供は国の宝でもあるし、町の宝でもあるし、やっぱり子供というのは、生物全部の宝物なのですよね。そういうことを考えると、これは早急にいろいろ検討委員会を立ち上げて、ボランティアだっていいと思うのです。予算なんか組まなくたって。各種スポーツ団体は、みんなボランティアでやっています。そういうスポーツ団体の人たちの意見を聞く、現場のとにかく意見が一番私は素晴らしいなと。それで、またいろいろアイデアが出てくるのかなと。そういうことを考えて、本当に危険である中野小学校のプール、これは道路から歩道からわずか3メートルぐらいですよ。これは、この中にぼんと何か入れられたら大変なことなのです。もう悪いことを考えたら切りがないのだけれども。実際に、だれでもいいやというような事件がいっぱい起きています、今。こういう不景気になると、もう腹いせというか、心のゆがみがいっぱい人間にはできます。そういうことをやっぱり防ぐ意味では、早急に安全な場所、そして冬でも使えるような、せつかくお金をかけるのですから、もうできれば365日使えるようなシステムの物の考え方、そういうことをみんなで考えて、本当に邑楽町はすごい町だなと、そういうことがみんなの目に映る、頭に残る、そういうよその町から見学が来るようないい町にしてもらいたい、そういうことで、この中野小学校プール移設についての質問は、これで終わり

ます。

続きまして、震災瓦れき廃棄物処理の早期支援についての質問に移らせていただきます。これは、まくら言葉でも話したように、とにかく大変な責務、任務だと思います。健康でいられるこの県というのですか、被災地と比べて。そういうことを考えると、本当に我々、町長もそうですけれども、私もそうですけれども、戦後の混乱期に私たちが今のような食事、この衣服、こういうものは、着られませんでした。食事では、サツマを麦と一緒に炊いて食べたり、学校へ持ってくるあれもジャガイモ、サツマ、そういう代用食でしたよね。そういうことを考えれば、まだまだあの時代、昭和24年から30年の時代は、よかったと思います。だけれども、この震災は、家から身内から、要するに子供、大人、おじいちゃん、おばあちゃん、あつと言う間に自分の目の前からいなくなってしまった。言葉をかける間もないというような状況があったと思います。実は、私は9月22日に、この前も話されましたけれども、3回休んで5時間かけて気仙沼までちょっと行ってきましたけれども、本当に観光地は、きれいに道路なんか整備されましたけれども、一步外へ出た港の近くは、流木が流れ着いたままでしたよ。ということは、瓦れきに全然手をつけていないということですね。この3月7日上毛新聞、それと朝日新聞のちょうどたまたま3月6日ですね、朝刊に、町長、これ見たと思います。町長も朝日新聞、私のうちと同じの。こういう悲惨な、まだまだ1年たつのにこんなですよ、ほら。こういうことを考えたら、町長も大泉町外二町の清掃センターの副管理者として、私は監査委員としてこの間会議に出ましたけれども、そういう流れの中で、町長、率先して、副管理者なのですから、この群馬県の確たる衛生組合とか処理組合の人たちが、東京都が受け入れているので、見学に行っているのですね。その辺のことを考えたら、全然問題ないよと、そういうことを考えて、町長これから早急に2町の首長に申し込み、また県の専門家を呼んで、町で説明会をすとか、そういうことをやってもらいたいと私は思うのですけれども、その辺町長はどう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 震災瓦れきの処理受け入れについてということでありまして、ご質問の中にもありました大泉町外二町の清掃センターがあるわけでありまして、この構成している3町の中でのこの考え方というふうについては、震災瓦れきの処理については、応援をしていきたいというような共通認識は持っております。しかし、この受け入れをするかしないかということも含めて、今後その組合議会なり清掃センターの受け入れ状況なりを十分考えていくということがありますし、何よりも、私は安全性の確保、いわゆる放射線量の安全性の確保というのが優先されていかなければならないだろうと、そのように思っております。県からの説明会等があった場合に、その考えがあるかということについては、県のほうでもそういった指導、助言等があれば、これは十分受け入れる、受け入れないということは別にして、十分理解をしていくための考えというのは、そ

のとおり持っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 安全性のこの理解ということで私は受けとめていますけれども、これは安全性をだからこそ町民に早急に説明をしてということは、群馬県で先ほど話した、上毛新聞に出ていましたように、34人の職員がもう行っているのですね。行って東京都を見てきているのです。そういう流れの中では、何の問題もないのですよと。ということは、掃き出すほうの岩手県、それと宮城県のは、検査されて搬出されているわけです。それでまた来たものに対して受け入れるほうも検査しているわけです。だから、この新聞に、上毛新聞にも載っていますけれども、働いている人たちも別に普通の作業で働いて、何の違和感もないですよと。防護服とかそんなの使わずにやっていますよと。通常処理されていると同じように、冷静に延々と処理しているということで、それで処理した後、また測定をしているわけですね。そういうことは、ではなぜできるかと。ならば町長も勉強していないのですよ。ベクレルとシーベルトのそういう言葉の意味は、町長わかっているのですか。ここで時間の無駄だから、私のほうが、町長わかっていると思いますけれども、私のほうが説明しますよ。いいですか。間違っていたら町長、訂正してくださいね。

ベクレルとシーベルトの関係、音楽家のシューベルトではなくてシーベルトです、単位ね。非常にこれは簡単に、私も本の中からピックアップしているのですけれども、ベクレルというのは、物質そのものが出す放射線の量です。食べ物の表示、物質が中心の考え方、物質の量とも考えられるよと、これがベクレルです。シーベルトとなりますと、人間が浴びる放射線の量です。空中の表示、これは町なんかでも貸し出しているのかなと思うのだけれども。人間が浴びる放射線の量といいますと、太陽の光からも浴びていますけれども、人間の要するに中心の考え方ですよ。人間中心の考え方をしますと、例えばもう一遍戻ると、ベクレルというのは、物から出てくる、そういう放射線というのですか、それが10メートル、20メートル、10メートルのところではかったら1時間どのぐらいだと。20メートルのところではかったらどのぐらいだと。例えば、10メートルでミリシーベルトはかったら1.0だったと。20メートルではかったら0.5ミリシーベルトだったと。そうすると、簡単な話が、ストーブで当たっている炎の暖かさに似ていると思います。これ考えるといいと思いますけれども、近くで当たれば暖かいですよね、何シーベルトって単位が出てくると思います。遠く離れば、100メートルも離れば、今の時期だと寒いですよ。そういう距離的なことを考えるはかり方、これが炎の大きさと炎から離れた場合のベクレルだと。炎のものの大きさ、要するに強さですね、遠くなれば要するに寒くなるからシーベルトが低いのですよと、そういう、私も専門家ではないので。この前私は町長と一緒に、大泉町外二町の会議に出ましたけれども、私その質問したら、こういう要はブラジルだとか、あとはガラパゴス島の要するに鉱石がある国では、年間10ミリシーベルトぐらいは、もうふだん浴びているよと。それで、では日本とかニューヨークとか、鉱石がないところはどうかといたら、要するに0.2ミリシーベルトですよと。そういうこと

を考えると、レントゲン、歯医者なんか行くとレントゲン撮ります。それと、町の健診なんかでもレントゲン当てます、胸に。これが6.9です。それで、人間に害が、本当にこれは大変だよという年間、害があるというのは100ミリシーベルトよりも少なければ害がないですよ。であれば、福島県の瓦れきを処理しましょうというのでは、これはまた問題外ですけども、福島県ではない宮城県、岩手県だとか、要するに福島県以外のものを処理するには、学者もいろいろいますけれども、要は問題がないのではないかと。それで、東京都の石原知事は、もう学者ではないのですけれども、作家ですけども、ゼロのものと5のものを足して2で割れば2.5ではないか、ということ、すごく薄くなるよと、薄まるよと、そういう物の考え方があって、早急に実施しています。それに実施するには、早急にこういう論理的な説明を町民にして、大泉町外二町のまずは役員であるのですから、町長は。リーダーシップをとって、どんどん進めるべきだと私は思いますよ。その辺は、町長これから自分のほうから発信しますというようなことは考えていますか、お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 2月17日に大泉町外二町の清掃センター、執行部、それから組合議会の合同会議が開催されたことは、ご承知のことと思います。その議論の中では、いろいろ受け入れについてのご議論があったわけでありましてけれども、今後は、その説明会の、これは県の説明会の内容を十分精査した中で3町及び組合のほうで、事務レベルで調査研究していきますということになっているわけです。その後の問題について、副管理者の立場でどうかということでもありますが、私はこの問題については、いろいろ議員のほうから安全性が確保されているというようなご意見もいただきましたが、しかし3町での構成ということもありますし、先ほども応援していくということについては、共通認識を3町とも持っていますということを示し上げましたけれども、そういった安全性の問題が十分担保されるということが前提になってくるだろうと思っておりますし、そのことについて、私は今、国のほうでも県のほうでも動き出したようでありましてけれども、もっと国のほうでもその安全性について強力な考え方を示していただくということも1つには大切なことではないかというふうに思っております。そういった中で、受け入れということになりますれば、その安全性が担保されたということの部分について、3町あるいは清掃センターの合意形成が必要でもありますし、何よりも住民の皆さん、また議会の皆さんの理解を得ることが必要だというふうに思っておりますので、そういったことを十分念頭に置きながら、この問題については、進めていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長は石橋をたたいて渡らないのですよ。そうしたら、怒っていただけけれども、前。現時点だってそうでしょう。町民に討論会なり説明会なり、どんどん開くべきなのですよ。朝だっていいではないですか。自由に集まってくださいよと。ラジオ体操が終わった後、いろ

いろ自由トークしましょうよと、そういう発想が何でできないのですか。四角四面に、150人なら150人集めなくてもいいのですよ。3人寄ればそこへ行って、こういう自分で勉強したことを、またはもっと勉強している人がいますよ。であれば、新聞紙上をよく見ればわかるように、安全なのですよと。飛行機に乗っただけだって、地上にいる場合の3倍も放射線を浴びるのですよと。そういうことをよく説明して理解してもらえれば、それとこの上毛新聞だって本当にこれ説得力ありますよ。東京都でやっていて何で邑楽町でやれないのですかとか、そういうそれはリーダーシップと思いますよ、私は。ここで失敗したら腹切るぐらいの気持ちがなければ、邑楽町は、これからの邑楽町をよくしていけないと思います、すべての面で。

もう一つ、人間生きている限り、先ほど教育長にも話したけれども、お互いにどんな小動物でもお互いに助け合っているのです。生きているのです。同じ人間なのですよ、先ほど話したように。我々が経験したことよりも、大変な精神的痛手だと思えますよ、現地では。我々は、みんなが等しく食べ物がなかった時代に育ったのだから、みんなうらみとかつらみとかというのはなかったと思います、隣近所には。ところが、現時点では、東北3県がひどくて、ほかはほどほどまだデフレの時代ですから、物がいっぱいあり余るほどあるわけですよ。そういうことを考えたら、早急にこれは自分の腹を切ってまでもやる指導力がなければおかしいと思うのです、私は。なぜ話せるかという、私は町長に今までの4回も5回もそのときそのとき私は応援しています。一々この手帳に書いてありますけれども、最近では19号線の予算のことで、私は賛成討論もちゃんとしていますよ。だから、これは攻撃というのではなくて、そういう議員の中でも考え方があるのだなと。なぜそれを私言いたいかといいますと、町長も勉強家で知っていると思いますけれども、熊谷に活断層があるのです。何年か後、いつ起きるかわからないけれども、あそこがもし暴れてみたらどうですか。利根川左岸なんて一発ですよ。そうすると、防災マップ見たとおり、邑楽町の教育長の住んでいるあの辺だってみんな水がどんどん来て、水浸しですよ。崩壊ですよ。家なんていうのは。そのときに、だれに助けをもらうのですか。やはりお金ではないですよ。気持ちなのですよ、絆とみんな今までは言っていて、1年間絆々って、何やっているのですか。そういうことをもう少し政治の世界では、行政の世界では、トップリーダーが身を切って、時間を割いて、町民に体当たりで説明するぐらいの気持ちがなければ、私は本当の政治はできないのではないですか。石橋たたいて、隣の家がやったからやるか。国が号令かけたからやるかではなくて。そして、かかるものかかったら、堂々と県、国、そういうところへちゃんと要望書を出せばいいのですよ。燃す高炉が、要するに焼き場がないと思ったらちゃんとどんどんつくって、業者に6カ月以内でつくれとか、この新聞紙上で、先ほどの朝日新聞のかい写真の中では、9年から19年ぐらいかかると書いてあったでしょう。焼却する施設の費用ぐらい国と県でどんどん要望するのですよ。それで、町の業者を雇って、どんどん瓦れきも運んでもらうのです。それで、雇用もどんどん使ってもらって働いてもらうのですよ、24時間、交代制で。そういうことが背中を見て、子供たちが育つからいい人間が育つと思

ますよ。何も学校で文字を書いて、テストが100点取らなくてもいいのです。背中見て育つのですから。町長の背中見てみんな育つのですよ、町民も。その辺町長、どう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この瓦れき受け入れについては、私は慎重の上にも慎重を期して対処していくべきだというような考え方でおります。なぜかということをお申し上げますと、先ほども申しあげましたけれども、1つには、この西呂楽3町の清掃組合というものがあるわけです。そこでの議論、それから先ほど申しあげましたけれども、住民の皆さんや議会のご議論ということが必要だということをお申しあげましたけれども、その中で、やはり調査研究をし、その結果ということが大切だということに思っております。私自身がリーダーシップをとってということのお話もありましたけれども、なぜ慎重の上に慎重かということをお申し上げますと、この3町が瓦れきの処理を受け入れて、瓦れきが処理された後の最終処分場が、実は呂楽町にあることは、議員もご承知のことと思います。この処分場の地域は、住宅もあります。それから、その処分場から出される排水もあるわけでありまして、これらが周辺農用地があるわけでもありますので、農地に用水として利用されるということを考えたときに、やはり他の2町との大泉町、千代田町になりますけれども、他の2町の考え方よりも、そういったことを踏まえれば、やはり慎重に対応せざるを得ないということがその考え方でもあります。放射能の問題ということで、大泉町民の中にもメールやら電話やら直接来庁される方もおられますけれども、多くはその受け入れについては反対、あるいは慎重に対応してほしいという意見が多いわけでもあります。だからといってということもありますけれども、私は基本的には、住民の皆さんの不安がこのような形であるということをお考えますと、やはり慎重に対応せざるを得ないのではないかと。被災地の方のことを思えば、一日も早い復旧復興ということをお考えれば、議員が言われるとおり、私も十分理解をします。そういった考え方の中で、応援をしてあげたいということは、共通認識はそのようなことでもありますので、今後3町での組合議会、あるいは執行部の会議も持たれると。先ほど事務レベルで調査研究をした結果も出てくるとお思いますので、その結果を踏まえて、十分慎重な議論をしていきたいと思っております。

先ほど国、県のお話もさせていただきましたが、私は上部機関でのこの安全性の担保、安全性の確保ということをお強く要望していきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長は、こういう人の痛みというのをわからないから勉強しないのではないですか。時が過ぎれば、これは自分の頭の上、みんな問題は飛んでいってしまうのだよと。そうすれば楽だよと、そういうふうに私は今感じたのです。それでは大泉町外二町の清掃センターの副管理者の役目を私は果たしていないと思っております。ごみを処分するということは、これはあそこへ最終処分場をつくったこと自体で、受け入れているわけなのです。そして、焼却場から出たものに対し

でも、ちゃんと検査しているわけですよ。それで、あそこでも排水だとか、要するに燃した金属とか、そういうものも全部流れ出る水までちゃんと検査しているのです。そういう検査をでは疑うのですか。そんなことおかしいでしょう。現時点でやっているのですよ、ちゃんと。毎日毎日検査して、そしてオーケーが出ているのに、それで先ほど話したように、だからよく話を聞いてくださいよと、私よく町長に言うのですけれども、福島県のごみではないのです。そういうことを考えれば、あなたはナンバーツーなのですよ、あそこの清掃センターの。ナンバーツーの人が、周りの状況をよく見てだとか、周りから説明を反対に受けるのですか。あなたのほうが、先ほど話したように3人いれば3人のところに寄って行って説明するのでしょうか。私に言わせれば、だから、あなたの物の考え方狭過ぎるのです。政治家に合っていないと思います。今まで自分のやってきたことを、自分は本当に政治家かなと、もう1回自問してくださいよ。でなければ、この人を助ける、本当にこれは行政とか我々みんな議員というのは、人を助ける、大げさに言えば自分よりも人を幸せにしてやりたいなど、そういう気持ちがないければ、これはできる仕事ではないのです。もっとちょうだいよ、もっとちょうだいよではなくて、私はまくら言葉でも話していますけれども、もっと私を使ってくださいよと。そういうことで進まなければ、対岸の火事だと、なるようになれよと、そういうふうにしかならないですよ。だから、自殺者だって出ているのですよ、現地では。もう1年もまだたたないのに、公表されていないけれども。非公式では、500人前後もうそういうふうに見込みを、夢がなくなって、出ているわけですよ。そういうこと考えると、早急に検査すればいいのですから、福島県のごみではないのです。そういうことは、何でわからないのかなと、我々理解に苦しみますけれども、これ以上でも町長と議論しても先へ進みませんから、我々議員の間では、事あるごとに、大丈夫なのですよと、飛行機乗ったって今の放射線量の倍は、もう浴びてしまうのですよと。レントゲン毎日撮っているでしょうと。これなんか100分の1ぐらいですよと、人の害に。そうでなければレントゲンなんか撮りませんよ。そういう科学的なこともちゃんと踏まえて、それで人に説明して、うそ言っただけはいけませんよ。だけれども、こういうデータがみんな出ているわけですから、そういうデータの中で町長、朝何人の人と行き会うか知らないけれども、会ったらとにかくこっちから投げかけてくださいよ。あなたはもうどう思うのと。勉強していれば、間違っていることは、いやこういう考えもあるよと話すことが、私はやっぱりトップリーダーの仕事の1つだと思います。そうでなかったら、本当に月並みの言葉ですけれども、被災地の人というのはかわいそうですよ。絆々と言って、口だけで心は逃げてしまうのですか。そんなおかしな道理はないと私は思います。この問題は、とにかくもう一度町長にトップリーダーとしての、本当に一生懸命邑楽町の人を集めて、それで自分も勉強して、恐らく町民の人たち、ただ風評の関係で福島県原発を浴びた放射性物質ではないのですよ、これ。三陸の津波で壊れた材木だとか、石ころだとか、コンクリートとか、それを邑楽町の業者がどんどん、どんどん行けば仕事になるのですよ、はっきり言って。これは、打算的ななんて言われてしまうけれども、でもそれもお手伝いなのですよ。十何

年分もあるというのですよ、まだ。そういうことを考えたら、対岸の火だなんて見てもらえないでしょう。これは、要望として、みんな議員も町長も教育長も、各行政に携わる人は、みんな一生懸命考えて、できるだけ1秒でも早く援助の手を差し伸べましょう。この第2問の震災瓦れき廃棄物の処理の早期支援についての質問は終わります。

○立沢稔夫議長 暫時休憩します。

〔午前11時07分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時20分 再開〕

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 休憩前に引き続いて3つ目の質問に移らせていただきます。

町長の政治姿勢と理念について、これは前にも1度お伺いしていますけれども、その流れの中で、まだまだ町長の公約が全然表へ出ていない、そういうものが多々あります。それは、先ほども瓦れきの問題で話しているように、これしつこいようなんですけれども、我々政治に携わっている人たちは、弱者のほうにスタンスを置かなければ、能力もあってほどほどその財力のある人というのは、どういう言葉使っていいかわからないのですけれども、要は俗に構わないでおいても生きていけるのですよね。だけれども、身寄りのないお年寄りが夫婦で病院にいたりか、施設にいるというような人たちは大変です。施設へ入れる人はまだいいと思います。最近の問題になっているのは孤独死、そういう問題を、私は政治家である我々町会議員も議員必携の中では、政治家というような位置にいると明記されています。そういうことを考えれば、町長、町長の初議会、これは平成19年12月25日の会議録を私も持っているのですけれども、この中で、後援会資料の件で私は質問しています。後援会資料の中での発行されたマニフェストは、町長の責任があるのですか、ないのですかという私の質問に、その責任は私にあると。58ページにちゃんと会議録に明記されています。この議会での一般質問をなぜやるかという、こういうふうに明記されているのですね。後で水かけ論にならないです、はっきりこれ出ているのですから。当然私の言ったことも入っています。そういうことで、4年前の4年と約3カ月前のこういう町長の姿勢は、今も変わっていないのですか、その辺をお聞かせください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私の町政運営に係る姿勢ということについては、今も同様でございます。公約の部分については、その時々状況ということもありますので、若干変わっている点はあるかと思いますが、基本的なスタンスは変わっておりません。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 変わっていないというような今お答えでしたので、何がでは私の質問の中でその責任は私にありますと言っているか、このこれからの質問になる前に、もう一度町長には忙しいからこんなところまで読んでいないと思うのですけれども。討議資料についてのその責任があるかないかということで私が質問した中で、金子町長は、当然金子正一後援会で発行した資料については、私も内容は十分承知していると。町民の方に訴えたということですから、その責任は私にあると、こう言い切っています。非常に好感の持てる答弁だったなど。そういうことを考えれば、本当にありがたいことで、現時点で私確認したら、基本的には変わっていないよということであれば、まずは、これは私と町長の政治スタンスの違いから、議論の的になっているのですけれども、第3子出産祝金の復活をさせますよと、討議資料の中でうたっているのです。そういう流れの中で、今後その第3子の祝金の復活は、どういうふうに進めていくのですか、ひとつお答えを願いたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 4年前の公約の中では、そのような形で、具体的には10万円だったと思います。それを20万円にということの訴えはいたしました。先ほど公約の部分については、時々その状況によって変わるというようなお話もさせていただきましたが、その後国のほうでは、子ども手当の支給等、変化をしているということも1つにはあります。そういうことを考えますと、この第3子の復活については、国の負担と合わせて、この子育て環境の充実が図られていくのではないかとということを考えますと、現状10万円で支給をしておりますが、そのようなことで今後も進めていきたいと、そのように思っています。

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、4年前に公約したこと、だから私は初めから町長のそういう政治姿勢は、変わっていないのかと。それから私は質問に入っているのです。基本的に変わっていないって私はとっているのですけれども、変わったのならば広報おうらでちゃんと出すべきですよ。こういう私は責任のある立場で公約をしましたと。だけれども、どういう理由か知らないけれども、黒字になっているのですよ、単年度のあれが黒字になっているってちゃんと報告で出しているでしょう。お金があるのに人のお金を削減するかという議員もいますけれども、これ本当に人様のお金なのですよ。母子手帳はただもらえないのですよ。母子手帳というのは、ちゃんとお医者さんが認定するのですよ。あなたは妊娠していますよと。もう私も子供が大きくなってしまったから忘れてしまったけれども、出産日はいつですよとか、そういうのが多分大体入っていたような気がします。そういう流れの中で、あなたはちゃんとこういうふうに邑楽町じゅうに、こういうふうに邑楽町じゅうに支援しますよってうたっているのですよ。であれば、町のいろいろの機関と協議する云々、どうせあなたは言うてくるかもしれませんけれども、協議していいのではないですか。協議して町の活性

化のために、ではお金ではなくても、町の中で使える呂楽町の券をあなた商工係長か課長やったときに出したでしょうに。そのとき1,000万円、その辺の商品券を。そういうことも考えて、本当に発想がちょっと乏しいですよ。ぐるぐる、ぐるぐる人の顔色見て、よその町の状況を見ているから、どんどん、どんどんおくらせてしまうのですよ。だけれども、そういうことで考えれば、これはもう一度考え直して、だってあなたはこれを否定していないのですよ。もうやめたって放り投げていないのですよ、広報でも何でも。だから、私は第1番に今言ったのです。私は、この質問をしたときに、時がたてばどんどん、どんどん対象者がふえてしまいますよと。だから早目にやれば、わずか20人か25人で済むのでしょうと、そこへ私はちゃんと助言しているのです。どうせ小島議員が言ったぐらいではどうってことないや、だれも聞いていないやという、たかくくっているから4年も5年もたってしまうのですよ。そうではないですか。だから、そういうことを考えればこれから、とにかく町長というのは名誉職ですよ。名誉職の人が町民に対してそんないいかげんなこういうチラシをまいて、おかしいのですよ。いいかげんでしょう、やっていないのだから。この辺をもう一度町長にお尋ねしますけれども、何らかの形で子育て支援をするよと、その辺の意思表示を私はしてもらいたい。答弁をお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどもお答えをいたしました。4年3カ月前ということのようですが、その分については、そのような訴えをしたという経過があります。公約ということになっておりますから、議員が言われる部分もあるかと思いますが、その状況がその時々によって変わる。具体的には、国等で子育て支援についての、具体的には子ども手当ということの支出もされている。そういうことを考えたときには、そのような約束ではあったわけですが、現在の10万円ということでの支給ということをお願いをするということで申し上げましたが、今後もそのような形で進めていきたい。したがって、4年前の約束については、逸脱をする分もあるかもしれませんが、その20万円ということについては、できないということでお答えします。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 これは町長、何回もさっきの瓦れきのほうの関係からも私は言っているけれども、町長はトップリーダーなんですよ。トップリーダー。子供ではないのです。その人がこれ言い切っているのですよ。第3子出産祝金を増額しますと。「第3子」ってちゃんと明記しているのですよ。それで、今年度より10万円減額された、あなたが減額したかしないか、その辺議会でそういうふうになったのですけれども、これは私は議会でも反対しました記憶があります。第3子出産祝金を20万円に予算復活しますと言っているのです。それで、ここへ来て事情が変わったから云々なんて、こんなの言いわけにならないですよ。であれば、広報おうらで、私の政治姿勢として間違いでしたからこれは取りやめしますと。10万円でご勘弁をとか、10万円でご勘弁して

くださいとか、その辺の謝意、謝りの礼をするのが当然ではないですか。そうでなければ、子供たちまでおかしくなってしまうですよ。人間は何言ってもいいのだと。そういう本当にトップリーダーは、やはり自分の生き方までもちゃんと人に見習うような生活してもらいたい。そうでなければ規律も何もなくなってしまうですよ。その辺の私は第1面に上毛新聞みたいに、第1面にぼんと出せとは言いません。広報の片隅でもいいですから、私の公約変更についてとか何とかいってちゃんと出すべきですよ。そうでなければみんなまだまだ、これからまだ話しなくてはならないところもありますけれども、その辺どうですか、ちゃんと謝意というか、広報、公な要するに町民に知らせる言葉を出さなければならぬのではないですか。きのうは、ある議員が名前を、邑楽町の名前をどんどん発信するのにステッカーを張ってどうのこうのってありましたけれども、その反対もあるのですよ。町長は、本当に人間的に一步退くことが大事だって坂井議員も言っていたけれども、一步やっぱり認める、これはできなかつたよと、そういうことがかえって好感を呼ぶ場合があるのですよ。また、子供にもそれ教育です。できなかつたら素直にごめんねと言えるぐらいの度量がなければ、やはり人の指導者には。まだまだ一生勉強です。ということを考えて、この辺の謝意を片隅でいいのですよ、一番裏の。その辺のもう少し人を大事にする、人の心を温かくする、そういう気持ちを持ってもらいたいと思うのですけれども、町長どう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私も議員と同じように、そういった行政執行をしていく上では、同じような思いで行っているつもりでもありますし、これからも住民の皆さんへのこのサービスのできるだけ維持向上が努められるように努めていきたいというふうに思います。

それから、過去の問題についてということですが、その後の議会との予算審議の中で、10万円ということでの議論の中で4年ほど経過したということ踏まえれば、広報等に文を載せなくても、理解をしていただけるのではないかな、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長は、自分自身の殻の中に閉じこもっているから、自分しか見えないのだと思います。やはり一步外へ出るなり、またその反対に引くなり、そういういい意味での優柔不断を持たないと、町民と幾らこれ話をしたって続かないと思います。これは、町長、これから4年間、町民と一緒に新しい町づくりをするのであれば、こういう本当に弱者ですよ、3人も子供を育てるというのは、自分も経験あると思いますけれども、これは大変な労力なのです。そういうことで一言何で片隅でもいいから、ごめんなさいと、そのほかに違う方面で一生懸命やりますと、そういう添え書きしてもいいから、できないものはできなかつた、ごめんなさいと何で言えないのですか。そういうある意味では、おれおれ詐偽と同じですよ。20万円もらえらと思ってた人が、子育て支援に子供のスポーツウエアか何か買えるなと思って、それと絵本でも買ってやりたいなと思っても、

今は先ほども話したように、とにかくこれ新聞にも書いてあるのですよ。私でたらめに言っているのではないのですよ。年収200万円以下の層が1,000万人も超えているのだと、そういうことを考えれば、有名な日本のメーカーであるあれが最近つぶれたでしょう。ああいう倒産したら全部社員は首ですよ。倒産したところなんか行っても金がもらえもしない。だから、そういうことを町長は何でわからないのかね。そして、初めてあなたが一步退くことによって足並みがそろっていい政治がスタートすると私は思うのです。だから、一々自分の公約を検証してくださいよ。それでいいものはこういうふうにした後、堂々と話していいのではないですか。その代わりできなかつたものは、真摯にごめんねって、こういうことはちょっとできなかつたよと、その辺もう一度広報にちゃんと載せるように私はお願いするのですけれども、それできませんか、町長。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 繰り返しになりますけれども、私自身その過去の4年間の議会審議の中でと申し上げましたけれども、その中で10万円という予算措置の中でお認めをいただいたということを考えれば、私自身の考え方もかもしれませんが、ご理解をいただけたものではないかというふうに考えておりますので、広報に掲載をなささいということについては、私はちょっとそこまでしなくもわかっていただけないかというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長は、自分のそういう信念というのですか、生き方、これはもう私もこの前12月の議会だったかな、全員協議会でも話したように、憲法で保障された幸せ権というのがありますからね。あなたがどうしても私は嫌だよと、そういうふうに思うのなら、これも仕方ないかなと。でも、こういう話をしたことが、議会だよりの中で、今は検索できるようですから、その辺の見られる人はいいのですけれども、見ない人は、とにかく政治家というのはいいかげんだなというようなことを言われるのが本当に私は忍びないところがあるのです。そういう流れの中で、今度はこれもあなたの公約の1つに、とにかくお年寄りに住みやすい、そういう社会をつくるのだと。町民との協働による町づくりするのだよと。そういう流れの中で、やはり先ほど話されたように、本当にこれからは、あと10年、15年たつと、もう高齢者がいっぱい出てきて、医療費と介護保険とか、そういうのがまだまだかかってきますよ。だから、私は口が酸っぱくなるように、前年度に対して今年度は、2億4,000万円も余計にお年寄りからお金をもらわなければ回転しない保険制度、社会制度になってしまっているのですよ。そういうことを考えると、施設に入らなくてもいいように、それと病院で暮らさなくてもいいように、その手順としてサロンの広場とか、そういうお年寄りが近所の人たちと手を添えていろいろの話ができる場所をもっと援助してもらいたい。そうすれば医療費が多少なり元気になるのですから。今うつ病だとか統合失調症とか、そういう病気がすごく多いのですよ。骨折だとかそういうのではなくて。そうするとこれがすごく時間かかるのです。骨折

は時間がたてば、失礼な話ですけれども治る、目に見えて治りますよ。心の病気というのは、なかなかこれ大変なのです。外から見えないし。そういうことを考えて、町長もう少し各民生委員が一生懸命努力している、奉仕ですよ。そういうことをやっている人たちに、今、月に1回のところは2回にしてちょうだいよとか、そういうことを考えていることを町長はどう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 高齢者の方々が住みよい、住んでよかったというような町づくりは、私はこれからも進めていきたいし、またいろいろご協力をいただきたいというふうに思います。ちょっと質問の趣旨が私自身ちょっと申しわけありません。ただ、介護保険料のお話が具体的に出了たから、この……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 申しわけありません。もう一度、申しわけありません。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私の説明が、ちょっと町長のことを思い過ぎてわかりやすかったのですが、かえって混乱してしまったのかなと思いますけれども、その辺はおわびします。

お年寄りがいつまでも元気であるようにするには、近所の人たち、そういう人たちのことが絆というのですか、隣近所の。民生委員なりまた区長なりが中心になって、今サロンの広場とか、また心ある本当に一生懸命やっているグループは、よっていがっせとか、そういう地域社会での本当に活躍している人たちがいます。そういう場所にもっともっと光を当ててもらいたい。ということは、みんな民生委員もボランティアです。ボランティアはボランティアでいいのですが、今度はそれを1カ月に1回のところを2回にした場合には、かなりの負担があります。だから、そういうことを1つの例として、食材は町で買うものに対しては、半分は商工会を通して負担しますよとか、そういうことはできないですか。先ほどの質問は取り消します。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変失礼しました。今各行政区で行われていますいわゆるふれあい広場ということで、民生委員を中心にして地域の方々が高齢者の方と一堂に会してこの話し合いをしているということについては、大変貴重なことでもありますし、今後も引き続き続けていただければという考えでもあります。その中で、支援策としてという具体的なこの施策でありますけれども、既に行われているこの施設等については、それ相当の費用負担もさせていただいておりますし、各行政区も当初は社会福祉協議会のほうから、十分ではありませんけれども、支援をしているという経緯があります。したがって、今後当然地域の皆さん方のお力をおかりする中でふれあい広場という具体的なお話もありましたが、こういった地域での絆、地域での助け合いということは、大切なことでも

ありますので、社会福祉協議会を通して、あるいは民生委員のほうからも協力をいただく中で、もちろん地域の区長等、役員にお世話になる中で充実を図っていくというふうに考えていきたいと思えます。これは、当然のことではありますが、住民の皆さんの協力がなくては、高齢者の皆さんを安心して安全に支えていくということにはなりませんので、ぜひ行政のほうもそういった形の考えで進めさせていただきますけれども、地域の皆さん方にも、あわせて一緒になってお願いできればと、このように思います。

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 前向きな町長のそういう気持ちを私は今感じていますが、本当にお年寄りのこれからの生き方というのは、本当にこれで消費税が上がったり、それと高所得者と低所得者の差がこんなに開いてくると。本当にだれでも思うのですけれども、食べないで節約してしまおうと。我々の年代以上の人はみんなそうですよね。そういうふうにもまた戦後やってきたわけですから。でも体力がなくなってきていますから、また知力、要するに電話すれば何でもないことも電話ができなかったり、そういうことを考えると、本当に行政が絆、隣近所、または親戚、そういうところに抵抗なく話、電話等ができるようなお手伝いを行政がしなくてはならないと思うのです。それにはやっぱりトップである町長が、予算を組むのですから、我々議員が予算を組むのではなくて、我々議員はチェック機関です。そういうことを踏まえて、こういう一般質問でみんなが話されたことを逐次やっぱりいいものはどんどん取り入れてもらいたいと思えます。

そういう中で、最後の1つの質問になりますけれども、これは行政改革の一環として、困ってからだとすごいその労力が要ります。病氣してからだとすごい回復するのに時間かかります。だからこそ先ほど話したように、お年寄りが近くの公民館に歩いていく。また、人と話をすることによって心のケアができる。そういう流れの中で我々議員は、議員は何もやっていないではないかなとよく話を聞きます。これは町長が言っているのではなくて、いろいろ町へ出ると。だけれども、町長の知ってのとおり、議員の定数削減、これは平成17年3月の議会で4人削減が実行されました。削減に対して私は反対討論しました。4人削減よりも、これは町長が議員の時代だったと思うのですが、平成17年だから。それで私が何を言ったかということ、議員削減されて、私なんかの小さい部落は、議員を選出するのが大変なのです。ということは、今言ったように、お年寄りはいくらもなかなか気持ちがあっても、今もう歩けるけれども、だんだん衰えてきて、投票所も行けなくなってしまふような、自分の思いが要するに投票できなくなることがこれから、5年、10年先は多々あると思えます。そういう流れの中で、議員の報酬、私は50%オフにしましょうよと。そうすれば、議員は20人のままでいいのだよと。節約する、50%削減すれば、我々みたいに小さい部落でも議員が選出されるのですから。だけれども、結果は19対1で4人削減ということになりましたね。それで、昨年度は2人削減と。4人削減の議員報酬、1人大体年間443万3,000円の削減です。これが4人削減になったから、当時ね、1,773万2,000円の町民の税金を縮減できた、そういうことでありました。

そういう流れの中で町長に、いつも私は町長と教育長にはお礼を言うのですけれども、何を言うかという、私の議員提案で、今さっき話したように、福祉のこと、それと教育のことに關して、そのお金をその分使ってくださいよと、もっと欲しい欲しいではなくて、こういうふうに使いましょよと、使ってくださいよということをいつも私は議員の立場というか、自分の信念ですね、政治姿勢で言ってきました。いつも私が今先ほど話したように、教育長と町長に、本当にご苦労さんと、ありがとうございます、いつもまくら言葉の中に入れております。それで、今度の選挙でそのことを町長は、ちゃんと町民にこのぐらい節約しましたよって出していますよね。だから、これは町民もわかったと思いますよ。

だけれども、今回の問題になっているあなたの報酬は、全然削減ではなくて、規定どおりにもらいますよと。だから、これはあなたの幸せ感だとか、そういう先ほど話した憲法13条にあります。あなたのそれは権利です。でも、よくよく考えれば、これは町長、一生懸命働いた会社の社長とか、それならば私はいいと思うのです。だけれども、世間的な流れであれば、やはりこれは、それとあなたがいつも言われている、要するに町民との対話の中で、何人が値上げしていいですよと言ったとか、そういう統計があって初めて整合性が出てくると思うのです。だから、それがなくて出てきているから、若い議員に、ちょっとおかしいよと。もっとかいつまんで、これも新聞によると、要するに、私何回も言っているように、首長給与ゼロのところもあるのですよね。これはもう破綻してしまっている。本当に町がにっちもさっちもいなくなってしまう。そういう町で、福島県のある町なのですから、それと一番有名なのが夕張の市長選で30歳の市長が当選した件がありますよね。これは鈴木さんという元東京都の職員でした。それで、この人は、月給25万9,000円でいいのだと。そういうところで、年収ベースが都職員よりも200万円も少なくても私は仕事をするので、そういう意気込みでこれネットでちゃんと出ていますよ。やるのだと。そうしたら、石原知事が、応援するから頑張れと、そういう心意気ですね。政治というのは、やっぱり勇気と奮起なのです。そういうことで、町長、もっと勇気と奮起を持って、私は政治に携わってもらいたいと思います。

答えはいいです。もう時間でありますので、とにかく勇気と奮起、そして町民のために何ができるか、それをあなたにお願いして、私のきょうの一般質問を終わりにします。どうもありがとうございました。

○立沢稔夫議長 暫時休憩といたします。

〔午後 零時01分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

◇ 大 野 貞 夫 議 員

○立沢稔夫議長 8番、大野貞夫議員。

〔8番 大野貞夫議員登壇〕

○8番 大野貞夫議員 議席ナンバー8番、大野貞夫でございます。きのうから行われております一般質問、きょうが2日目ということで、私が最後から2番目ということで、それぞれの今までの同僚議員の一般質問を聞いておりまして、大変すばらしいアイデアや考え方を私も聞かせていただいて、これからの邑楽町をつくっていく上で、本当に住みやすい邑楽町づくり、皆さんがこうして心をひとつにして執行部ともども頑張っていくことによって、いい町づくりができるのではないかと、そういう希望を持ったところでもあります。これから私の一般質問に入るわけでございますが、今日私たちを取り巻く環境といいますか、社会のさまざまな状況、これを反映して、非常に今現在複雑な社会構造、こういうことが言えると思います。そんな中で、人間の平均寿命、これは非常に延びておりまして、一人一人の人生、これが非常に長くなっております。一方では、子供の少子化、また高齢化、こういうことによりまして、この地域の結びつきというものが、以前の私たちの子供のときから比べますと、非常にその地域性というものは、何か希薄になっているのではないかと。非常に弱くなっているような感じもいたします。そういう中であって、今後私たちが生活をしていくに当たって、その一日一日をより充実した日々を送っていく。このためには、やはり私たちは、この社会全体に深い関心を持つ必要があると思う。そして、広い意味でのそういう点では、学習が必要なのではないかと、そういうふうに私は思います。

そこで、町長にお聞きをしたいわけですが、この私たちの町、邑楽町ですね、これのいわゆる生涯学習活動と言われているわけですが、このあり方について、町長はどのような認識、考え方を持っておられますか、まずお聞きをしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 生涯学習活動についての認識ということのお尋ねでありますけれども、私は子供からお年寄りまで、それぞれの方々がそれぞれの立場があるわけですが、意思に基づいて自発的に学習してみずからを高めていく、みずからの生活意識を高めていくということが、この生涯学習の大きなねらいであるというふうに思っております。そして、その学習が、今もご質問の中にもありましたけれども、地域づくりの源といいますか、地域づくりに役立てていけるような状況が作り出されていくと。そのことがこの生涯学習の大きなねらいであるというふうに認識をしております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 ただいまの町長のお話の中にもありましたように、この生涯学習の位置づけとして、1つにはやっぱり地域づくり、こういうことが大事なのだと、私もそのように思います。いわゆる協働の町づくりということが言われているわけですが、まさに地域づくりというこ

とが、これに当てはまっていくのではないかなというふうに思います。町長の施政方針、この間伺ったわけですが、この中にもこの生涯学習のところに、非常に格調高い言葉が書かれています。「地域づくりは人づくりという観点に立ち、生涯の各時期に応じた社会教育活動を積極的に展開し、すべての町民がいつでもみずからの意思に基づいて自由に創造的な学習ができるような環境整備を進める。また、町民の自主的な活動機会の提供と、各世代の課題に即した学習、町民の心を豊かにする事業を実施して、地域の連帯感に根差した協働の町づくりを推進する」と。まさにここに格調高く書かれています。そして、いわゆる邑楽町では公民館活動、これが非常に盛んに行われていると思います。この「公民館等では、青少年、女性、高齢者、成人等、さまざまな町民を対象に趣味や教養、生活の向上に資する講座などを開催するとともに、各種文化団体による発表会や講演会等の文化活動の育成、支援に努める」とあります。私は、この邑楽町は、そういう点では、他町村に負けないだけのその文化活動というものは、かなり積極的に行われているというふうに思っています。生涯学習とは、一口で言っても、この分野では、学校教育だとか、あるいは社会教育はもちろん、スポーツやすべての行政分野も含む、非常に範囲の広いものだと思います。今言ったように、この邑楽町では公民館を利用した公民館活動、文化活動がとても盛んなわけですが、この町の施設である邑楽町公民館やあるいは長柄公民館、そして福祉センターである寿荘など利用してのイベント、あるいは発表会、催し物、多くの町民が活動しております。

そこで、また町長にお伺いいたします。今後、町としてこれらのこのいわゆる文化活動、これの育成、あるいは支援について何か具体的にあれば、どんなことを考えておられるのかお聞かせをいただければと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど議員のほうから示されました内容については、町の教育行政方針の中にも触れているところでもありまして、教育委員会のほうでは、その指針に基づいて活動を進めていっておられるというふうに理解をしているところでもありますが、具体的に町としてその文化活動について、どのような支援を考えているのかというようなご質問でありますけれども、育成支援ということを考えていきますと、文化活動については、現在町に文化協会がありますけれども、その文化協会を中心とした既存の文化団体への育成支援、それから公民館の主催事業などにかかわる一般の町民の皆さんへの育成支援ということの2つがその柱になっているのかなというふうに思っております。具体的に、文化協会への支援ということになりますが、当然のことでもありますけれども、この協会が自主的にそれぞれを尊重し合いながら、協会がより発展し、文化活動が充実をするというような形での活動をされているというふうに思っておりますので、そういったことを考えますと、まさにそれぞれの団体が文化活動を通して教育行政方針の中に触れられております薫り高い文化活動ということの結果が町づくりに寄与されているのではないかなと、そういうふうに考えて

おります。公民館の事業主体についても、折に触れ、社会教育主事等がその活動状況に応じて指導、支援をしていることは、もちろんのことでございます。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今お話の中にありましたように、1つには文化協会、こういう大きな団体があります。今年度に限らず、毎年度予算の中で邑楽町は、補助金として金額にして72万5,000円、こういう金額を文化協会に補助金として出しております。文化協会の中には、幾つかの各種団体が加盟をしており、こういう形になると思うのですが、この中の1つに、音楽連盟というのがございます。去る3月3日土曜日、この音楽連盟の主催によりまして、第23回邑楽町吹奏楽とコーラスの集い、こういう集いがありました。私たちの議会に対しまして、議員あてにこういう案内のチラシが配られております。私はたまたまちょっと用事がありまして、どうしても行こうと思ったのですが、顔を出せなかったのですが、今までこの中で、いわゆる参加団体、幾つかずっとあるわけですが、私もこれをいただいたときに、よく見ればよかったですけれども、ちょっと気がつかなかったのですが、実はちょっと残念なことがありました。それは、邑楽町には、高齢者のいわゆる私が何度かこの本会議の中でも取り上げてまいりました、この町のいわゆる高齢者対策、これの一環として、いつまでも生き生きとした元気なお年寄り、こういう人を1人でも多くつくっていかなくてはならないと、こういう中で、よっていがっせという施設が今邑楽町で2カ所行われております。その中のこのよっていがっせ、この人たちが今まで過去、4年ぐらい前になるという話ですが、ずっとこのコーラスの集い、それから7月に行われております七夕コンサートというのがあり、この中に参加をしていたわけです。ところが、今回、何の前ぶれもなく、突然参加から削られていた、こういうことがありました。私のところにそのよっていがっせの関係者の方から、大変憤慨をして、何で今回外されたのだろう、それも何の理由もなく何の話もなく突然こういう形、これは匿名ですけども、文章が私の手元にあります。私が今これちょっと読み上げますから、聞いてもらいたいと思います。匿名とは言っても、どういう関係の人が書いたかというのは、これを聞けばわかると思います。

「邑楽町吹奏楽とコーラスの集いに、よっていがっせ合唱団が参加できなくなったのはなぜでしょうか。この集いにはずっと参加してきました。昨年は、Aさんが役員として集いの会議に参加していましたが、ことしは連絡がないということで、Aさんから問い合わせがありました。私も驚いて、Bさんと長柄公民館へ問い合わせに行きました。「ことし、よっていがっせは集いから排除されています」とのことでした。「排除されているところは、よっていがっせのほかはどこにありますか」と聞いたら、よっていがっせだけだということでした。音楽連盟だけで行うということでした。今まで一緒に行っていたのに、なぜ排除されてしまうのか。私たちよっていがっせ合唱団は、3月3日も含めて、歌声合唱の成果を多くの皆さんに聞いていただきたいと願って、こ

の1年間を通して勉強し、歌い続けてきているのです。健康のためだけではありません。私たちのよっていがっせ合唱団が集いから排除されていることなど、今まで全く知りませんでした。改めて、なぜ私たち合唱団が排除されてしまったのか教えていただきたいと思っています。今まで3月3日を目標に楽しみにしているよっていがっせ合唱団の皆さんに何と話したらよいのでしょうか。今まで何年も一緒にやってきていて、今ここに来て合唱団に加入していないからなどと言いわけできないです。高齢者だから参加資格がないというのでしょうか。ステージに立ったとき服装がまちまちだからでしょうか。「七夕の音楽集会には招待します」、なぜ招待なのですか。今までは、参加してください、一緒にしましょうということでした。200円の券売りもしてきました。よっていがっせ合唱団には、指導者も指揮者も伴奏者もそろって活動してきているのです。先日の町新年会の席で、金子町長は、ことしは高齢者の在宅活動にも力を入れていきたいなどと話していただきましたが、音楽連盟の思いは、町の考え方、進め方とは違うのかなと心配になります。できることならよっていがっせに来て、よっていがっせの高齢者の在宅活動を見ていただきたいです。生き生き、伸び伸び元気で積極的に生活しています。邑楽町吹奏楽とコーラスの集いという中に、邑楽町が入ることで町とかかわっているとすると、これらのことについても町長の話もお伺いをして、私たちも高齢者の生活をより豊かにと願って、これからも活動していきたいです。よっていがっせの活動は、邑楽町の委託事業になっています」。こういう文章であります。町長、この文章は、初めてだと思えますけれども、これを聞いて、ちょっとどんな感想をお持ちですか、お聞かせください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今の文章をお聞きをして、率直に私の気持ちとしては、そのようなことがあったことについて、大変残念なことであったというふう感じたところでもございます。その文化協会が主催とはいえ、やはり今までの参加をしていた経緯等を考えれば、十分な配慮をすべきではなかったのかなと、そのように感じたところでもあります。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 まさに今町長の言われるとおりでと思います。今、町では、非常に少子高齢化ということで、子供の数が少ない、それに対しまして非常にお年寄りの方が多くなってきている。邑楽町の第五次総合計画後期基本計画の中にも記されておりますように、昨日の同僚議員の話の中にもありました。今からこれから3年後になりますか、平成27年には、推計で65歳以上のお年寄りの数が7,200人になる。率にしますと24.8%、25%に近くなる。こういう中で、これは邑楽町に限らず、どこの自治体でもそういう傾向にあるわけですが、特にそれによって、いわゆる高齢者に係る例えば医療費の問題、こういうことを1つとっても、私も再三この席で発言をさせていただいておりますけれども、例えば介護保険料、これも年間にすれば何と1億円を超えるような、そういう勢いで毎年毎年ふえてきている。人間ですから、どなたでも年をとっていけば人の手をかりなけれ

ばならない。施設にも入らなければならない。きのうの松村議員の発言の中にもありましたように、1人のお年寄りが施設に入ることによって、その症状にもよりますけれども、200万円、300万円、こういうお金がかかっている。これは、人間だれしも年をとっていくと、これは仕方のないことだと思います。しかし、そういったお年寄りに一日でも長く元気で過ごしていただく、こういうことが高齢者対策の中の1つの一環として、いろんな考え方はあります。施策もあるでしょう。しかし、その中での今このよっていがっせいな、こういうお年寄りが生き生きと暮らしていけるような環境づくりを、呂楽町とすれば、地域の公民館を使ったり、サロンのようなことでやるということも、そういうことも含めて、今全町的にそれをやっていく必要があるのではないかと思いますけれども、そういう町の高齢者を大事にしていく、こういう考え方のある中で、今回とられたこの音楽連盟の結果は、町のそういう方向とは逆行しているのではないかと、そういうことが私は残念ながら今回発生をしたと思います。この音楽連盟については、私も詳しいことはよくわかりませんが、今までこの文化協会の中でも有力な団体だというふうに伺っております。そして、過去には、いわゆる多目的ホール、こういうものを建設する、こういう1つの目的といいますか、署名活動などもとりまして、1度目は8,000名を超える署名、2回目には1万名を超える署名、こういうものも活動してきた有力なメンバー、団体であります。しかしながら、こういうものを、署名をとるについても、紹介者の名前、何人か書いてありました。個人の名前を書く分であれば、多分その個人に了解をとったと思います。しかし、その上に全部肩書がついております。何々会長、何々会長、しかし私が聞いた範囲内では、肩書をつけてやるというまでの了解はしていないと。もしそういうことであるならば、自分の所属している関係団体の了解を得なければできないのではないかと、そういうこともあったように伺っております。

それから、その連盟のいわゆる責任者の方は、いわゆるその自分のやっているサークルといえますか、その中でさきに行われた町長選挙のとき、対立候補を中傷するような政治的な発言をされているということを、その場に居合わせた方から私は聞いております。それは、1つともかくとしましても、そういったことが平然と行われているということは、果たしてこの音楽連盟は、本当の意味で民主的な運営がされておるのだろうか。私は、そこに危惧を感じます。音楽連盟そのものは自主的な団体ですから、町の行政からすれば行政機関でもありません。これを指導していくとか、そういうことは、私はできないと思います。しかしながら、ある一定の町のわずかではあるけれども、予算の配分も受け、運営資金も補助金として受け取っているという観点から考えれば、町長、私は今このようなこと、今後二度とないように、勧告ぐらいはできるのではないかと。勧告というのは、わけを説明をして進めるということです。指導という形になると、これはまた別ですから、そういう勧告程度のことだったら、私は町としてできるのではないかとというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどの文章をお聞きした中でお答えをしたわけですが、もう少し事前にその排除ということではなくして、事前に了解をし、話し合いを進めていけば、そのような状況にはならなかったのではないかというふうに感じていました。そういったことが結果として起こってしまったわけですので、今後としてということになります。議員が言われますように、自主的な団体ということでもありますから、まさに指導ということには当たらないかもしれませんが、公共施設等を利用してその発表会等が行われ、なおかつ補助金等を受給をしている、町から支出をしているということ考えた場合には、やはりそのような問題が起こらないような状況をつくり上げていくということは、私は大切なことでもありますし、それを担当している課のほうで、十分今後二度とそのようなことが起きないような形で、参加できなかったということは、恐らくその団体の中でいろいろな事情があったかもしれませんが、それはそれとして、これからそういったことが起きないような、まさに文化活動が皆さん共有できるような環境をつくっていかねばならないと。私もこれからもそういう点で、担当する課のほうにもこれは指導といいますか、助言はできると思いますので、今後徹底していきたくと、このように思います。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 私は、この音楽連盟の責任者ということで、今回ここで私は名前を言いません。しかし、町長は、よくご存じの方だと思います。課長からとかということももちろんでしょうけれども、町長として、こういう問題が議会で取り上げられたのだと。それに対して、やはりもう少し気をつけていただきたい。町の本来の趣旨からちょっとずれてしまっていますよ、こういうことは、ぜひ町長の口から言っていただきたい。そして、きょうもごらんのように傍聴席にはそのよっていがっせの皆さんが、この1年間一生懸命、3日の日に発表するがために練習をしてきた、それがほごにされたということの怒りでもってきょう集まってきているのです。ですから、そういう点もよく酌んでいただいて、ぜひ町長の口から、この責任者の方にも伝えていただきたいというふうをお願いしておきたいと思います。

〔「約束します」と呼ぶ者あり〕

○8番 大野貞夫議員 今約束をするということをしていただきました。これからの町の行政のあり方として、いわゆる高齢者に対する思いやり、弱者に対する思いやり、こういうことをやはり町の基本として大切にしていかなければならないというふうに思いますので、そういう観点から、ぜひ町長には頑張っていただきたい。このことをお願いをして、この問題を終わりたいと思います。

それから、今の問題、ちょっともう一つだけつけ加えさせていただきます。よっていがっせの皆さんたちが私に言ったのは、もちろんこういったことに対してのことで、憤りを覚えるぐらいに何だということになったのですが、でき得れば、なぜこういうふうになったのかという理由を、責任者の方によっていがっせに来てもらって、この皆さんの前で説明してもらいたいということを強調

していました。これもつけ加えさせていただきます。

続きまして、障害者の福祉についてということでご質問を申し上げます。従来の本会議の中、他の同僚議員からもお話があったわけですが、呂楽町の障害者の施設、ご存じのようになのはな園、この施設の移転に伴う問題です。さきの議会の中では、塩井議員のほうからの質問に、場所の移設ということで、具体的には旧役場庁舎の北側にある建物、ここに考えているということで、その後も雨漏りの修繕とかということで、そこまでのお話はお伺いしておりますが、その後の進捗状況、これは私所管なので、これは町長のほうからお答えをいただければと思います。お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 12月にお答えをした後の、その後の進め方ということですが、今北庁舎については、雨漏り防止のための修繕工事を実施いたしまして、その中に以前役場のほうで使っておりましたいろんな書類があります。倉庫という形で使っているわけでありまして、それらの保存場所ということで、その保存してある書物等を移動するということがあります。その作業がその修繕等が終わった後に、具体的には6月ごろになるかと思っておりますけれども、なのはな園の移設と申しますか、そういうことで責任者の方と調整をしていければと、こんなふうに思っています。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 移転の時期が6月ごろということですが、移転をするについても、その施設の使い勝手、障害者の方がそこに来られるわけですから、その中の例えばトイレの設備とか手洗いとか、そのほかもろもろの、そこに移設をするということになれば、具体的に使い勝手をどうしたらいいかという話になってくると思いますが、その辺の話というのは、このなのはな園とはどの程度進んでいるのでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど6月ごろと申し上げましたが、若干前後するというので訂正させていただきます。

ご質問のように、その施設についてのトイレの使い勝手ですとか、いろいろ障害者の方が利用するのに利用しづらいというようなこともありますから、特にその移設をする施設の関係者とは話しておりませんが、その使いやすいような形での改修も考えていきたいというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 この問題については、さきの先月2月17日に、町の療育父母の会という会がございまして、この保護者の方との懇談会を実は持った経緯がございまして、私も含めて、呂楽町の議員3名が話をぜひ聞きたいと、そういうこれは議会としてではなくて、私たちの議員個人として

の判断でそういう場に出たわけなのですけれども、懇談会を持ちました。そこで出された切実な問題というものは、やはりこの直接的には、今この児童サービスの対象外、いわゆる今20歳までは措置をされる。その後、20歳の誕生日とともに退園を余儀なくされる。その場合に、この人たちがどこへ行ったらいいのかと。行き場がなくなるという、その非常に切実な問題が出されました。大泉町とか太田市とかあるいは足利市とか館林市、そういう他市町のほうに障害者としての受け入れる施設と申しますか、企業も含めてですが、そういうところがある人はまだいいのです。それもなかなか、希望したからといってそういうところに素直に入れる条件には今なっていない。そうすると、まさにこの人たちはこれを境にして、本当にどうしていいかわからない。もちろんご家族は、そのためにこの子供にかかりっきりになるということになれば、当然働くこともままならない、こういう非常にもう急を要する話になされたわけです。話をしている、聞くも涙、語るも涙という状態でした。こういうためのいわゆる障害を持った人たちが、本当に安心して暮らすことができる、この受け皿となる居場所の確保、これが非常に早急に求められている。あるお母さんは言っていました。私は、やはりこの邑楽町で見てもらって、邑楽町でまたその後も措置をする場所があれば、それが理想なのだと。それを、例えばなのはな園にいても、その後の場所が今度は仮に見つかったにしても、はるか離れたところに行くというふうになれば、そこに送迎とか、もう本当にありとあらゆる苦勞というのですか、もう聞いていて本当胸が痛くなるような状態です。これからもそういう人たちも出てくるわけです。障害福祉サービスと申しますか、いわゆるこの基盤整備ですね、この基盤整備を今後町としてやっぱりどのように進めていくのか、この点は非常に難しい問題であると思いますが、避けては通れない問題だと思います。邑楽町としてのこのことに対する今後の考え方として、町長はどのような考え方をお持ちなのでしょうか、お聞かせください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この障害者福祉施設での基盤整備、とりわけ障害者の方が自立をできるような施設整備ということは、これはやはり必要だということは、だれしも思っているところだというふうに思います。現状では、館林市に特別支援学校の高等部等も新設をされまして、ここで障害の程度と申しますか、障害の内容によってそれぞれ自立ができるような指導も行っているところでもありますけれども、やはり年齢的なことを考え合わせますと、20歳を過ぎてからの支援、その部分が脆弱であるということは、そのとおりでもありますし、したがって、関係する方が、現在では隣接の市町村にあります施設等で活躍をされているという部分もありますし、町内では地域活動支援センターということで、そこで働いているというような方もおられますが、やはり脆弱な部分は否めません。その不足する部分を町としてどう考えていくかということですが、現在のところ、具体的にその方策というのは、大変関係する皆さんに申しわけないのですが、具体的にその計画、施策ということもないわけではありますが、しかしこれは言われますように、町独自でなくも、複数

の町等の協働ができれば、やはりそういった施設づくりは、必要であるというふうに思っております。幸い邑楽町には、そういうことで大変お骨折りいただいている施設もあるわけでありましてけれども、やはりそういった施設整備というのは、町としても今後考えていくということについては、そのとおりだというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今の邑楽町の地域活動支援センターは、ご存じのように石打の今のヤングプラザのところですか、寿荘の隣にあるわけですがけれども、ここは私の手元にある非常に古い資料ですから、今これがそのとおりになっているかどうか、ちょっとわかりませんが、定員が10人程度ということだと思います。今既にもう満杯の状態だと思います。こういう施設というのですか、やっぱり私は今の町長の答弁の中だと、かなり先行きこれ暗いなど。もう何かその少しでもちょっと明るい話でも聞けるのかなと思ったのですけれども、なかなかそこに足を踏み出すということが相当これ勇気のいることだと思います。しかし、私は避けて通れないのではないかなというふうに思います。ちなみに、隣の館林市、ここは財政規模も違いますし、ですけども、それだからといって手をこまねいているわけではないと思います。ちなみに、館林市は、今現在多々良沼の松沼の中にあります養護老人ホーム、ここの跡地にこの障害者の総合支援センターにこの施設をつくる、こういう計画ができておるということが、私どもの同僚の共産党の議員の一般質問に対して、市長のほうからつくる考えが表明をされました。その中身になりますと、いわゆる総合福祉センター等にある重度の障害者のデイサービス、それから児童デイサービスのⅠ型とって、いわゆるその就学前の児童ですね、この人たちが対象の児童デイサービスのⅠ型、そして障害者、新たにデイサービスのⅡ型、これは小学生から上の年齢の方、こういう施設も兼ね備えた、それに付随した福祉作業所もその中につくっていると。それから、障害者の相談支援センター、こういうものもここに移して、いわゆるショートステイ施設も含めたいいわゆるその総合支援センターというものを計画しております。これがいつできるか、当然財政的な裏づけもあるわけですから、日程的なものは、まだ聞いておりませんが、そういう青写真を既につくってあるということです。ですから、私もやはりこの邑楽町もまずお金を考えてしまうわけです。お金を考えてしまう。だけれども、こういう施設をつくるについては、丸々我々の税金を使うということだけではなくて、県や国とか、あらゆる補助制度を活用して、そこに苦しんでおられる人たちに少しでも先の明るい話題を提供できるようなことだけでも、もう取り組む必要が、やっぱり町としてあるのではないかというふうに思うのです。ですから、これは、今回限りのことではなくて、これから議会のあるごとにこういう話が出てくると思います。そういう意味でも、町長の1つの決断として、そういう考え方が今のお話になると、なかなかちょっと暗い話ですから、もう少し明るい話ができるような決意を1つ披瀝をしていただきたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変失礼しました。町のほうには、今障害者の福祉計画を進めているところでもあります。当然議員が言われますようなこの施設整備というのは、私も必要だというふうに思っておりますし、その計画の中での状況もあるわけでありましてけれども、障害者の皆さんが安心して生活ができるような基盤づくりに今後努めていきたいと、このように思います。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 何をやるにも物にはお金が必要ということになります。私は、この邑楽町、今回の一般質問の中にも他の同僚議員、あるいはそれに対する町長の答弁の中にもありましたように、どこをどうしたらいいか、非常にこの手探り状態といたしますか、これは町だけに限りません。今、国もそうだと思います。国も借金が1,000兆円を超えて、普通の会社であればとっくに倒産、こういう状態の中で何をやるにしてもお金がかかる、確かにこれは当たり前の話です。町も今後24年度の予算を審議するに当たって、非常に介護保険を初めとして大幅な値上げにならざるを得ない、こういう予算が組まれるということになります。今払いたくても払えない健康保険、滞納者も大分ふえてきています。滞納額も相当ふえていると思います。こういうことをいかにして解決したらいいかということは、常にでは財政の税収をどうしたら上げるのかと。そのために、町の特産物である商品にマークをつけて、特色のあるものを打ち出してやっていく。いろいろそれぞれが議会の議員の皆さんも考えに考えていろいろやっておられる。こういう中で、私は私の1人の考え方もしれませんけれども、今発想の転換をする必要があるのではないかと。いかにして邑楽町が将来、本当のいい町にするためにはどうしたらいいかということになれば、確かに企業誘致、そういうことも必要でしょう。しかし、私はむしろ今邑楽町を活性化するためには、ハード面よりもソフト面をより充実していくほうが、私はいいのではないかという気が、私のこれは考えです。というのは、やはり多少の不便は感じて、そこに邑楽町で住んでいけば、子供も安心して産める、お母さん、お父さんも安心して外に働きに行ける。それから、お年寄りも安心して医者にかかれる。医者にかかれるためには、今健康保険が高くて払えない、場合によっては保険証を取り上げられてしまう。そういう中で、医者にかかりたくてもかかれない、こういう人も現実におられるわけです。私は、自治体の本来の使命というものは、そこに住んでいる人たちの命と暮らし、これを守るのが自治体本来の仕事であるというふうに私は考えております。そういう点では、いろいろもろもろやらなければならぬこといっぱいあるわけですが、発想の転換というのがやっぱり思い切ってやらないと、この問題は解決しないというふうに私は思います。そういう点では、ひとつそのところを、町長を初め執行部の皆さんには、いろいろ議会とも常に相談をしながら、いろいろ勉強をして、考えていっていただきたいなというふうに思います。

もう今の時代、企業が来て、いろいろありますよ、私はここの中で、例えばリフォームの補助制度が今度できました。これによってまだ金額はわずかですけれども、その制度が、できるだけ町民

の皆さんに知っていただいて、活用していただければいいなというふうに思っています。ですから、そういう点での個々のもろもろのことはありますけれども、基本的には、今あるところの実情を固定化して、観念として考えてみた場合には、そういうソフト面に移行するという考え方にはならないと思います。今までのある現実のあるところを肯定して考えていったのでは、なかなかその先に明るい展望を見出すことは、今の時代大変なのではないかなと。邑楽町というのはいい町だよ、子供を安心して育てられるよ、年寄りも安心して生きていくことができるよ、そういういわゆるソフト面の……

○立沢稔夫議長 残り5分となりました。

○8番 大野貞夫議員 施策をやっぱり考えていくことが、これからの町づくりに私は必要なのではないかなという気がしておりますが、最後にその辺の町長の考え方をお聞きをして、私の質問を終わります。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ソフト面の充実ということでありまして、私も安心して生活ができる、またできるような町づくりをしていかなければならないということは同感でもありますし、私もそのように認識しております。その上に立って、今までの事業実績の中では、例えば福祉医療の問題、それからこの女性特有のがんの予防の問題、小児のヒブ肺炎球菌等のこの問題等のソフト面も大変取り組んできたわけでもあります。しかし、それがすべてだというふうには思っておりません。今議員のほうからも、執行部と議員の皆さんとの相談というお話もありました。新しい事業を起こすということになりますと、当然そういったご相談をし、そしてよいものをつくっていかねばならないということになりますので、今後私どもも真剣に、今まで以上に取り組んで、住民の皆さんが安心して安全に生活ができるような施策を、限られた予算ではありますけれども、取り組んでいきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 ありがとうございます。これで私の一般質問は終わりますが、最後に、今度3名の課長が退職されます。横山土木課長、小島福祉課長、中村総務課長、私はこの議会に出させていただいてからまだ2年と約半年ちょっとです。非常に私にとってみれば短い時間でした。しかし、このわずかな時間ですけれども、いろいろこのお三人の方にはご助言をいただいたり、私もいろいろなことを教えていただきました。ぜひ今後とも十分健康に留意されまして、退職後も、その豊富な経験と知識をこの町づくりのためにお力添えをぜひいただきたい、このことをお願いをして、本当にご苦労さまでした。ありがとうございます。これで終わります。

○立沢稔夫議長 暫時休憩とします。

〔午後 2時10分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時25分 再開〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○立沢稔夫議長 10番、小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 10番、小沢泰治です。通告に従いまして、議員が議員としての責務であります本会議での一般質問をさせていただきます。

一般質問に入る前に一言お話しさせていただきます。今定例会が平成24年の第1回の定例会でございます。全課長におかれましては、24年度予算の編成ということで、非常に大変な思いをなされて、厳しい財源の中、できるだけの事業を執行するというので、鋭意努力されたことだと思います。特に、この3月31日で定年退職となります中村紀雄さん、横山正行さん、小島哲幸さん、そのお三方につきましては、特に心に残るこの24年度の予算編成であったのではないかと思います。

〔8番 大野貞夫議員 9番 田部井健二議員 15番
細谷博之議員退場〕

○10番 小沢泰治議員 振り返ってみますれば、現金子町長が議員のときの、議会内であってはならないという最高裁判所の判例も出ていました。そういう例がある中で、あえて同僚議員の6議員を訴えてしまった。その後の議会内の混乱、そういうことがありまして、非常に全課長ですけれども、長く課長をなさっていただきました皆さんにつきましては、特に大変な思いがあったかと思えます。また、その後第1回目町長選挙のときは、過去があるわけですから、当時20人の議員のうち6人、3割の議員を被告としてもめた議員、金子さんには、私は絶対に出るなよと。ほかのどれかいないかということでお話ししましたが、結果的には、19年の選挙となったわけです。そして、またその選挙のときに、役場職員として、また首長、そういう経験のある方がシステム上、規定上できない退職金0円のピラを配りまくった、そんな中でなった町長ですから、町が議会と執行側が車の両輪となって真っすぐ進むわけがございません。ですから、この4年間、掲げた公約はほとんど実現できず、なおかつ逆に町民から批判を受けるようなことが多々ありました。そのようになりますと、議会と執行部、町民の目に直接入っていくのは、情報が届くのは議会本会議です、主に。そうしますと、町民あるいは他市町の皆さんは、議会はどうしているのだ、議会はどうしているのだ、それが常でした。また、あげくの果て、さきの議会においては、過去の議会において、先々回議会においては、自分が自分の責任で実行できなかった、町道幹線19号線について、強制収用、強制執行の手続きをとって実行するのだということで進めたわけですが、この小さな邑楽町において、それが実現できるわけがありません。結果としまして、担当の課長、また係と出向いて、横山正行課長は、話し合い

を地主とつけてまいりました。町長が出向けば話し合いがつきません。そんな中、首長抜きで話をしたのが実情です。そして、12月19日ですか、地主の方も了解しまして、印鑑を押してくださった運びです。土木課長におかれましては、長い間懸案事項があったわけですけれども、この退職を前にして、一応のめどがついたと、安堵の気持ちでいっぱいかと思います。

そして、あと二方、総務課長の中村さんにおきましては、前回の議会議員の選挙、町長選挙から、これまでずっと邑楽町においてはなかった選挙公報の発行が実現できました。この発行によって、やはり公正な選挙、公正公平、町民から見て客観的に立候補者が判断できる資料ができました。この町長選挙、議会選挙における、これは永遠に続きます。そういう足跡を……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 前置きです。そういう足跡を中村課長、残しました。本当にご苦労さまでした。

また、非常に立場上厳しい、あるいは時節、このデフレ下において税務課長を務め、また福祉課長となって鋭意努力し、邑楽町を守るため、縁の下の力持ちとなって頑張ってくださいだった小島哲幸さん、本当に厳しいものがあると思いました。ある鑑定事務所で小島さんが出向いて相談している姿も私見受けました。税の滞納、税金、それ円満にするのにはどうしたらいいか、非常に苦労なさったと思います。そんな中で、過日邑楽町の執行部体制は、でき上がっていなかったのですけれども、自己都合で早期退職なさった、その方が副町長として選ばれました。その節は、人事異動ありまして……

○立沢稔夫議長 発言者、通告に戻ってください。

○10番 小沢泰治議員 はい。ありまして、非常にある意味不条理なといいますか、そういうことがございます。そんな中で、非常に全課長を先頭にしてこの4年間、5年間というもの、大変だったと思いますが……

○立沢稔夫議長 通告に基づいて発言をしてください。

○10番 小沢泰治議員 今後ますます邑楽町が発展するように、あらゆる面で頑張ってくださいと思います。

それでは、通告に従いまして第1番目の厳しい経済情勢下、どのように町政運営をするか、そのことについてお聞きしたいと思います。

まず最初に、1990年にバブルがはじけ、それから二十数年たちます。そんな中で、非常に厳しい中で、町長という重職、重責を担ったわけですけれども、減り続ける税金に対して、税の増収を図るために、現在町長がどのようなことを考えているか、まずお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 税金の増を図る点についてということですが、議員も前置きの中で言われておりましたけれども、大変厳しい内外ともに環境の中での状況であります。したがって、税の増収を図るということについては、大変この厳しいものがあるわけでありまして、今後その税金についての具体的なことについては、今後とも十分意を配しながら、増収というところまで行くかどうかは別にいたしましても、図られるような努力をしていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 増収が図れるようなことで頑張るとのことですが、1つ、2つ、現在町長みずから心に考えていらっしゃることを、それをお聞きしたいと思います。お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいまお答えをしたとおりでもありますけれども、税金の見込みが少ないということを考えれば、行政運営をしていく上で、歳出の部分について、十分慎重に対応して運営していかなければならないのかなど、こんなふうに思っておりますし、具体的には鞍掛の第3工業団地があと2ヘクタールほど誘致が進んでいないところがありますから、これらの企業誘致に向けても県の企業局等にも働きかけをしていきたい。

また、昨日もお話がありましたけれども、商業スペース等の拡大をどう考えるかということもありました。今後いろんなご意見を拝聴する中で、突破口を開くべきだよというような話もありましたから、それらの指導も受けながら、商工業の振興、もちろん商工会、農業振興を図っていく中で増収につなげていければと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 10番、小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私がお聞きしているのは、首長みずからどういうお考えをお持ちか。1期目、本当にほとんどでたらめの公約で町民をだまして当選できました。2期目につきましては、それ以降のお話を聞きますと、長期計画に基づいて云々だけおっしゃいます。現実に今町長が心に抱いているものをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいまお答えをした考え方であります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ただいまお話をしたということですが、人任せでなくて、自分みずからがどのように、現在首長ですから、まだ町長選挙があつて3カ月もたっていないのですか、そういうことなのです。何を念頭に置き、今邑楽町をリードしていくか、リーダーとして引っ張っていくか、そのことで現在考えていることをお聞かせください。町民がではないのです。首長がなのです、お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 農業、工業、商業の振興を図り、そして税金、少しでも伸ばすことができればと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 農業、工業、商業の振興ということは、いつもいつも聞いております。その中で、具体的にどのようなことをお考えであるか、邑楽町の先頭に立ってすばらしい町にすべく町長になられたと思います。ですから、振興するのは当然なのですけれども、どのような施策があるか、それをお聞きしたいと思っております。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 一昨日に施政方針をお示しをいたしました。その中で、具体的な進め方等もお示しをしておりますので、そのことをご理解をいただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 先ほども施政方針演説については、すばらしいことが書いてあるということで、議員の皆さんがお話してくださいました。具体的に教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 農業振興について申し上げます。平成24年産米の生産数量目標について、国は最近の米の消費量を踏まえ算定した797万トンから、近年の需要動向による変動幅が生じていることを考慮した4万トンを控除し、793万トンとしました。国から本件には8万2,090トンが、本県から当町には3,211トン、面積換算で637ヘクタールの生産数量の目標の決定がありました。町は、農業再生協議会へ情報を提供し、農業再生協議会において農業者別米の生産数量目標の配分ルールを決定していきます。議会において農業者別米の生産数量目標の配分ルールを決定していきます。また、平成24年度においては、農業者戸別所得補償制度が引き続き実施されるとともに、新たに国において担い手確保、農地集積に関する施策の実施が予定されております。関係機関、団体等と連携しながら、農家への周知を図っております。このことは、農家に対しての農業振興を図ることによって、農家所得の向上が図られるものと思われまます。結果として、農業所得が増ということになれば、農業者からの税負担ということの数値が見込まれるものと思っております。

次に、畜産振興について申し上げます。畜産は、本町の農業において基幹作物の1つになっておりますが、都市化の進展に伴って飼育環境条件が狭められ、飼料の高騰等により経営状況も大変厳しく、畜産農家も減少傾向にあります。一方で、若手酪農家もおり、今年度より乳用牛導入事業への補助を増額し、応援していきたいと思っております。このことが結果として畜産農家の方々の飼養

意欲を高めることによって、私は復興的な経営を行う結果としてそのようにつながるのではないかと、このように思っております。

それから、何点かまだあるわけですが、商工業について申し上げます。町内の商業経営は、近隣都市の大型商業施設の集客が進んでいることなどの影響により厳しい状況となっています。経営の安定に支障を来している中小企業者に対するセーフティーネット補償制度の啓発に努めるとともに、中小企業振興資金や小口資金等の制度融資利用へのさまざまな助成を引き続き行ってまいります。このことによって、今大変な状況になっている中小工業者の皆さんが、これらの制度融資を利用されることによって、引き続き健全な経営体質が見込まれる。結果として、税収ということについて、私は進めていけるのではないかと考えております。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 この施政方針に基づいて、今議員が質問されましたことを進めていくことによって、議員の質問の内容が充足されるものと思っております。それでは、失礼いたします。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ただいまいろいろ読み上げていただきました。ただいまの答弁は、課長補佐で十分に間に合う仕事だと思えます。なぜなら、国から下がってきたもの、あるいはこれまでの制度融資等々、そういうものについて規定どおりのこととお話しただけです。これから邑楽町をどのように引っ張っていくか、そのお話をお聞きしたいと思います。新たな邑楽町の税収増を図るために、あるいは町民福祉の向上を図るために何が必要か、どういうことを考えているか、お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいま一部の部分について申し上げましたけれども、これらを充実することによって、低迷する経済状況ではありますけれども、前進するものと、そのように思っておりますし、そのような充実に向けてこれから努力をしていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 10番、小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今お話があったようなことだそうですが、やはり新規起業、事業を起業する、そういうことの応援、またそういう気持ちができるような町の体質、体制、環境をつくるのが町長の仕事だと思えます。制度融資が幾らあっても、あるいは補助金をどうだこうだ、これまでの事業に対してどうだこうだやっても、それはそれだけなのです。新たな事業を起こして、そして邑楽町を活性化する。過去にも質問させていただきました。すばらしい地勢、地域、環境があるわけです。それを活用したものを何ひとつ考えずに、例えば先ほどの質問の中で、白菜だとか、あるいは畜産品だとかお話ありました。そのようなことは、邑楽町から売り込むのではなくて、向こうから欲しがってきているわけです。そんなことで邑楽町がこれ以上発展するわけありますか。ですから、私は

あえて強く質問しているわけです。

過日、三役の報酬について、給料について決められたとおり、これまで長年にわたって10%のカットを各首長してまいりました。町長におきましては、退職金問題がありましたから50%にカットされていましたが、なぜならば、町民をだまし、うその公約で当選したからその結果だったわけです。それが終わる3月31日、この4月1日から規定どおりの71万8,000円、以下副町長、教育長がいただくと、そういうことであるけれども、一般企業であれば、成果主義で4年間の猶予をくれたわけです。初当選から4年間、何もやらずに税収は減る、交付金補助金をいただいて、町が何とかやってこられました。成果主義から考えたら年俸制で、次の4年間は3割減、4割減、あるいは左遷、降格、それが一般企業、社会の常です。そんな中で、なぜこの厳しい民間の経済情勢があるのにみずからは給与をカットしなかったか。当初です。そこをお聞きしたいと思います。原因、理由、はっきりとお答えください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昨日の議員のご質問にお答えをいたしました。そのお答えで理解をしていただきたいと思うわけですが、最終日には10%の減額ということで、規定額の10%の減額ということで、追加の議案として提案をさせていただきたいと思います。ぜひその節は承認を賜りますようお願いを申し上げます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長以下三役が規定どおりの、町長は71万8,000円、それをいただくということを自分が考えた、そういう結論に達した、それをお聞きしたいのです。過去のそれ以降の修正を云々ではないのです。その原点を町民みんなが知りたいと思っています。この厳しい情勢下。倒産はします、廃業はします、首切りはあります。給料はカットされます。そういう中にあるわけですから、民間企業のそれを理解した上での決定だと思いました。思います、もちろん。首長であるからすべてがわからなければならないわけですから、そういうことでなぜ規定どおりをいただく、その決断をしたか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず1つには、条例で決められているということ。2つ目には、選挙において選任を受けたこと。そして3つ目は、他の市町とのバランス等も考慮したということ。その考え方によって当初は考えたということでもあります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 これまでの首長は、もろもろ念頭に置いて1割カットしてきたわけです。金子町長は、自分が町民をだまして0円で当選したから5割カットになっていたわけです。過去の町

長は、10%カットしてまいりました、町長以下三役は。そういう中で、なぜ満額の71万8,000円であるか。条例は条例で決まっています。選挙は選挙で決まります。他市町とのバランス、その辺もすべて考慮して、もう一度規定どおりの71万8,000円に決定した確かな原因、それを教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 再度答弁ということでもありますが、先ほどお答えをした3点ありますが、そのような考え方に立っての判断ということで、重ねてご理解をいただければと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 それでは、再確認します。これまでの首長は、1割カットをみずからしてまいりました。また、近隣他市町の三役の皆さん、首長2割カット、3割カットをなさっているのがほとんどだと思います。そういう中で、あえて4年間、ほとんどの事業が実行できなかったにもかかわらず、民間企業であれば、成果主義ですから、何割減俸だということ非常に厳しいものがあります。そんな中で金子町長は、条例にあるから、選挙で当選したから、他市町とのバランス、これは私バランスが逆にとれていないと思うのですけれども、そういうことでよろしいですか。その3項目について、みずからのお話をしながらお答えください。これは、議会だよりに載りますから。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 静粛に願います。

町長、速やかに登壇願います。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 金子町長。

発言者は静粛に願います。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 条例は、この議会の府で決定されたものでもありますし、それから過日行われた選挙の中では、やはりみそぎを受けたということが考えられるかと思います。他の市町とのバランスということについては、その金額的な面ということもありますけれども、その辺が十分背景にあるということで理解をいただいて結構です。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 他市町とのバランスということですが、他市町の減額しているそのことと比較したことについて、町長がそのような原因だということをお話ししました。何が邑楽町のこの財政が厳しい中で、他市町が2割、3割カットしているのに、邑楽町が0、それが通るのでしょうか。その辺についてお話しください。他市町は全部カットしております。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私自身がみずから判断をしてそのような考え方に立ったということでもありますから、判断した背景については、先ほど申し上げたとおりでございます。したがって、23日の議会運営委員会の時点では、そのような判断に立っておりましたが、先ほど申し上げましたけれども、その後いろんな状況を考えた中で、その規定額の10%を減額した金額で追加議案として提案をさせていただくということは、昨日の一般質問の中でも質問者にお答えをした、そのとおりでございます。

○立沢稔夫議長 小沢議員、お尋ねします。

質問項目の中で、1番、2番、税収増加をやっているのか、それとも歳出削減をやっているのか、どこを今自分で質問していますか。その辺の区別してください。

○10番 小沢泰治議員 厳しい経済情勢下どのように町政運営をするかですしているのです。

○立沢稔夫議長 1番か2番かということ。

○10番 小沢泰治議員 要旨の2番……

○立沢稔夫議長 要旨のほうで。1番は終わったわけね。

○10番 小沢泰治議員 いや、ほかの方には、これは触れていないわけですから。

○立沢稔夫議長 ほかの方ではなくて、あなたの質問していることをお聞きしたいのです。1番の要旨か2番の要旨かということをお伺いしたい。

○10番 小沢泰治議員 2番に入ります。

○立沢稔夫議長 では、1番終わったのですね。では、区別してやってくださいね。お願いします。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 税収増加がなければ何もできない。何もできないとすれば、歳出の削減を図る。では、しっかり次の歳出削減。先ほども何も成果が上がらなければ成果主義で、年俸制ならば次は年俸が下がるということですがけれども、歳出削減をする中で歳出増を図った町長の決定について先ほどお聞きしたわけです。税収がない中、町長以下町三役、副町長、教育長の収入をこの時期に増加させたならば、年間収入を増加させたならば、町民福祉の向上、あるいは新たな事業の展開もできないと思います。そういう中で、先ほどなぜこの時期に上げたのか、その理由をお聞きしました。私が思うのは、先ほど町長がおっしゃいました農業、工業、商業の振興だということでありましたけれども、それはもちろんなのです。当然すべきことなのです。その上で私個人的には、新規事業の起業ができる環境づくり、それを提供する、また町長みずからがトップセールスをする、そういうことが必要かと思えます。また、この地の利を生かす、そういう中で、先ほど既存事業の活性化振興についてはお聞きしました。新規の起業、新しく事業を起こす、その環境づくりのためにどうするか。そして、トップセールスについてどうするか、その件についてお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 環境整備については、施政方針に基づいて事業を実施することによってその整備が図られるというふうに考えております。

それから、トップセールスにつきましては、これは言うまでもありません。みずからそれぞれの事業展開に応じて進んで実行していくということでもあります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 施政方針につきましては、詳しく町民が知る機会が少ないです。この議会、議場でのお話は会議録にも載りますし、議会だよりによって各家庭にも配られます。ぜひこの場で町長みずからの口から新規起業の環境づくり、あるいはトップセールスについて、どのようなことをなさるか教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 新規事業の育成ということも大切なことでもあります。あわせて既存の事業者に対しての支援ということも大切だというふうに思っております。それらを十分この24年度の予算の中で事業を展開していくということで果たされるというふうに思っております。あわせて、新規事業の中での新商品の開発等を行った場合には、それぞれ補助金等を出して、その関係する事業を幅広く進めてもらうということもこの中には含まれておりますので、総合的にそういった事業が反映できるように、成長できるように、この施策の中で進めていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢議員、もう一度伺います。

先ほどのお話の中では、1番の税収増加については終わったと申し上げました、あなたは。今度2番の歳出削減のところですよと言ったのですけれども、今の質問に対しては、3番の町民サービスか、商工業、農業サービスか、この辺が全くわからない状況になっていると思います。答弁者もこれだと迷うと思いますので、もう一度順位をつけてスタートからやり直してください。お願いします。

〔8番 大野貞夫議員 9番 田部井健二議員 15番
細谷博之議員入場〕

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長はわかっているわけなのですよ。

○立沢稔夫議長 町長がわかっているでなくて、順番にこの質問ここまでで終了しました。では次の質問に入ります、その過程を踏んでください。めちゃくちゃになっています。

○10番 小沢泰治議員 私は、最初の厳しい経済情勢化どのように云々、これでいいと思いますから。

それでは、町民サービスの向上とはということで、先ほどお話ししましたけれども、町三役のこの厳しい中を減額しなければ町民サービスの向上は、お金がないわけですからできないということ

で、ではそれはそれで、先ほど条例だとか選任だとか、他市町とのバランスでお話しいただきましたから、それにしますけれども、ここで一言お話ししておきますけれども、選任をされたという中で、町長選挙のときの有権者が2万2,299人いらっしゃったわけです。そんな中で6,720票とれました。投票してくださいました、町長に。その数字は全体の30%なのです。70%の方は、他の候補が棄権をしている。有権者がいかにこの町政に対して冷めているか、この象徴的なものだと思います。そういうことでありますから、ぜひ邑楽町が生き生きするように頑張ってくださいたいと思います。町民サービスの向上、そこは終わりにします。

商工農業、サービス業の振興ということで、新規事業、振興と新規事業の起業環境ですね、事を起こす、事業を起こす、それとトップセールスですが、それについては、先ほどお話しくださいましたように、町長みずからは、こういう案はないということですかね、もう一度お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 くどいようですけれども、重ねて申し上げますけれども、施政方針の中にその事業を行うための基本的な考え方が掲載されているわけです。それをもとにして予算の積算をしたということでもありますので、それぞれの項目にわたっておりますけれども、そのことで議員が質問された趣旨ということは、理解をいただけるのではないかと、そのように思っておりますので、大変恐縮ではありますが、ご一読をいただきたいと、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 それで、施政方針のあの文章、私来年度から班長をやるわけですから、各行政区を通じて全戸に配布していただけますか。全町民は町長が何を考えどうことをやろうとしているかをきっと知りたがっていると思います。ぜひその全戸に配布できるように準備をしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、結論から申し上げますと、全戸にそのものを配布ということについては、広報あるいは町のこのインターネット上の掲載等々がありますので、それで理解をいただきたいと思います。したがって、各戸の配布については、申しわけありませんが、配布できないということでご理解いただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そうしたならば、私たち議員が努力をして、町民に知っていただくように努力をすると、そういうことですね。そういう観点で私も頑張りたいと思います。

非常に町長からは、的確なお答えがいただけないものですから、私から一番簡単な方法で、金が

かからず、邑楽町全体がよくなるための施策をお話ししたいと思います。過去にも私お話ししました。金券の5,750万円のために金券500万円、町が予算措置してくださいました。毎年していただければ非常にありがたいわけですが、そんな中で、各企業あるいは団体、あるいは行政にとっても安上がりで宣伝効果の高い、ぜひ電光看板の設置をお願いしたいと思います。これは、非常に各1企業、1団体にしてみると安く上がります。それで、邑楽町じゅうすべて学校から保育園、あるいは文化施設、あるいは行政サービス等々が24時間、幹線道路を通過の、地元はもちろん、県外、遠く離れたところの方もごらんになることができます。そのたびごとに邑楽町のすばらしさを訴えていただいて、邑楽町に人が集まるように、邑楽町の魅力を知っていただくように、ぜひしていただければと思います。過日ロゴマークですか、話もありましたが、そういうのもその中に入れながら、ぜひしていただいて、邑楽町のブランド、そういうものをつくっていただければ、またそれを実行していただければ、この交通量の激しい354,122、足利邑楽行田線、足利赤岩線ありますから、ぜひそれを実行、予算措置を考えていただければと思います。いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ご意見として伺っておきます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 第1問目の質問の件のまとめですけれども、道の駅とか大きなのを選挙のときには公約に上げていましたが、その実行については、私個人的には、多分無理だと思います。なぜかといいますと、3割の議員を被告に回したわけですから、その了解が得られない、計画段階から得られない面が高い、そういうことが考えられます。全体的には、非常に厳しい経済情勢ですから、その中でいかに効率がよく、邑楽町のためになるか。それには先ほど最後にお話ししました電光看板の件ですけれども、それがその実行が一番手っ取り早いと思います。

続いて、次の質問に入らせていただきます。2番目が社会教育で児童期に理科系、理科系というのは理数、そちらもなのですが、理科系の体験学習経験をぜひということでお話しさせていただきます。学校教育で非常に、教育長も町内の学校の経験ありますから、よくおわかりかと思いますが、各学校が方針ですか、学校経営の方針を毎年つくっていると思うのですが、非常に決められたカリキュラム、もう1年生からこう、幼稚園からこうというのがあると思うのですが、それにのっとってやっていると思います。しかしながら、非常に忙しい中で先生方もいらっしゃいますし、また今この日本じゅう、世界じゅうなのですけれども、特に子供たちが落ちついて生活ができないようなメディアですか、そういうふうになっていると思います。例えば、テレビを見ますと、60分のうち30分近くがコマーシャル、残りの30分を見ますと、それがほとんどが一般的な今までの番組で言えばお笑い、私に言わせればお笑いも確かに大事です。しかしながら、子供たちが育っていく中で、やはり系統立てて物事を知っていかなかったら、学校ではそれやるわけですが、それ

を系統立てて学校はやっているわけですが、それだけでは今のメディアに押し流されてしまう。あるいはスポーツの競技もありますけれども、そういうのがスポーツの場合は、勝ち負けがありますから、そこですぐに目につくわけですね。その結果が、例えばゴールができた、あるいはヒットが打てた、ホームランが打てた、それが出ます。しかしながら、理科、数学、学校教育において、その分野においては非常に難しい。また、中間が欠けてしまうと次にいってもなおわからなくなってしまいます。そういう方々が非常に多いきょうこのごろだと思うのです。そんな中で、ぜひ社会教育の中で、その今お話ししましたものを取り入れていただきたい。それで、そういう中では、現状がどうであるか、それを少しお聞きしたいのですが、お願いします。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

確かに今子供たちのメディア環境は、いいところばかりではないなというふうにも思います。先ほどのコマーシャル、それからお笑いの部分でもちょっとよくないところもありますし、いろいろ影響は大きいというふうに考えます。活字離れにもつながっているところもあるかなというふうに思っていますが、一方で、若者は今、世界でもスポーツなどを見ても大活躍をしています。本当に日本のスポーツの力を今世界に示している。例を挙げれば、フィギュアスケート、テニス、サッカー、この間は15歳の中学生のスキージャンプ、いろいろ活躍していて、子供たちは、思ったよりは、成長をきちんとし遂げているかなという部分もあります。そして、学校教育と社会教育にちょっと分けてお話ししたいと思うのですけれども……

〔「社会教育のほうで……」と呼ぶ者あり〕

○大竹喜代子教育長 はい。では、その論理的思考をということですので、ちょっと済みません。学校では新しい教育課程、3年生から中学3年生まで理科があるのですけれども、新しい教育課程では、理科の授業が中学1年からは全部ふえました。というように、今そういう論理的思考、または実験を通して体験するとか、そういうことは、やはり重きが置かれています。それで、社会教育の面ですけれども、邑楽町でも理科的体験学習をやっているか。またはやってほしい。そういうことかと思いますが、今までの例で申しますと、邑楽町公民館では、子供向け講座で水生生物観察隊というのを3回に分けて、理科的な体験学習をしました。また、長柄公民館でも、おもしろ科学教室というのを3回に分けて実施しました。1回目は、気球をつくって空に上げる、そんな体験をしました。2回目は、大気圧を利用して不思議なコップづくりをしました。3回目は、空き瓶水族館をつくらうということで、つかまえてきたものを空き瓶を使って水族館、みんなで見せ合ったりして、なかなかおもしろ科学教室というのは人気があって、大人も楽しめるものでした。今例を挙げましたけれども、このように町でも体験をしながら理科を学ぶということも一応取り組んではおります。これからもやはり国のほうもそういう方針ですので、学校教育だけでなく、社会教育のほ

うでも科学に興味を持って喜んで取り組めるような、そんな理科系の体験学習の授業を少し見直しをしてやっていけばいいなというふうには考えております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 教育長のおっしゃる本当そのとおりだと思います。日本がこのように停滞している、それはやはり原因があるわけです。バブルのようなことをしてしまったからなるかもしれないし、あるいは今のお話の科学、それに興味を持てるような学校環境、あるいは社会教育環境、それが不足している。また、ほかのメディアに押し流されてしまっている。そのバランスが私とれていないと思うのです。そういうことで、ぜひ過日の数学の基礎学力不足、深刻ということで、これ出ていましたけれども、本当に私もびっくりしました。4分の1の人が平均が出せない、わからないというような状況が載ってまして、私これ質問、これ関係なくしたわけなのですからけれども、本当に系統立ててそれをやっていくことが、私たち町も強くなる、地域も国も強くなって、企業も繁栄できる。なぜかといいますと、スポーツにしても冠大会とかいろいろありますけれども、それにしてもやはりお金がなければ、スポーツも一生懸命振興もできません、推進もできません。そういうことで、ぜひこの科学の力、数学といいますか、その辺も必要かと思ひまして、今回は質問させていただいているわけです。

それで、児童教育というのは、小学校6年、12歳までぐらいかと、それ以降は専門的にもろもろ進んでいくところありますから、特にそうかと思うのですけれども、総花的にもろもろのことをやって、大人になったときにどういうことにも耐えられるという子供たちを育てるのが、その児童教育だと思うのです。また、飛び抜けてすばらしいのは、ダンスでも何でも、そういうのはそれなりに自分でみずからやればいい。そういう中で、今スポーツ少年団と先ほどお話しいただきました水生生物の何とか、それとおもしろ科学、年に3回、月に3回ではないのですよね。年に3回ですよね。例えばサッカーでもいいですけども、サッカー少年は、毎日のように学校が終わるとかばんを家に置く、あるいはそれを持って、児童館に飛んでいきますよね。子供たちに、そうとは限らず、すべて広く多方面にわたってという意味で、数学、理科的なものについても、その体制をつくっていただければと思うのですけれども、講師の先生というか、指導者というか、その辺もあります、ぜひその辺に重きを置いた、将来に向かってバランスのとれた子供たちが育つようにということをお願いしたいのですけれども、いかがなものでしょうか。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 多少スポーツに偏っているのかなというふうなご質問に受けたのですけれども、子供の今生きる力というのを、もう幼小中、そしてもうさらに高校も、ずっと生きる力というのを育てようというのが今教育の骨子です。そして、そういう中で、まず体を鍛えて健康にすること、これもすごく大事な要素なのです。そこで、昨日申し上げましたように、心身の健康は、本当

に人生にとって大事なことということで、その中でスポーツ少年団は、邑楽町は活発に行われていて、本当に心身、健康、心、体力などの成長への役割は、とても大きく果たしていただいていると思います。一方、ではそれではスポーツだけに偏っているのではないかということですが、子供は限られていて、そしてスポーツのほうに行ったり、あっちに行ったりということもなかなかできないので、時にできるようにということで、休みを利用したり、夏休みを利用したりということができるようということで、科学的なものや文化的なものや、そのほかのものも並行してやっておりますけれども、休みでないと子供が集まらないという現状もあります。また、講師の件もおっしゃっていただきましたけれども、あります。そこで、そういうバランスを考えて、少しでもこれからふやすような方向では考えていきたいと思うのですけれども、そういう現状でやっています、少し難しい点もあるかなと。両方一緒に月に3回とかそういうことだと、なかなか現状では難しい面もあるかなというのが正直なところでございます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 非常に両立は大変だと思うのです。文武両道、そういうことで、文化面においても、スポーツ面においても、体育面においても大事なのです。それで、人生は20歳で大人になりまして、ずっと60、70、80、90まであるわけです。そんな中で、体をちゃんとしっかりつくっておくことも大事だし、ほかの面も客観的な判断ができるだとか、そういうことも非常に大事なので、特に数学面等におきましては、中抜したら本当にわからなくなってしまうと思うのです。その辺を、理科面もそうですけれども、その辺をぜひ体験の学習で、それをしていただければと思うのです。そういう中で、それは努力していただきたいのですけれども、子供たちのために、学校でビオトープとかありますよね。小学校に全部あるのかな。全部は置いていないのですか。そういうことで、学校に置いてなくも、現実に邑楽町じゅうすべてがこのいい環境ではビオトープですよ。ですから、そういうのをちゃんと利用して科学教育といいますか、その振興を図っていただければと思うのですけれども、スポーツにおいては、先ほどもお話ししましたけれども、結果がすぐ出ますよね。勝ち負けが1試合やれば勝ち負けが出る、シュートして入ればそこで結果が出る、喜びがあるのですけれども、科学、数学面においては、その辺は本当に難しいことであるので、大変かと思えますけれども、ぜひその辺をお願いしたいと思います。

それで、年3回、6回だか12回になるかわからないのですけれども、その回数を各種団体があると思うのですけれども、毎週ぐらいに、だから52回ぐらいですか、年間でいくと52回。週1回ならば。そのぐらいの機会をつくってあげて、できるものなら学校の器具をお借りするというのは難しいのでしょうか、顕微鏡だとか。例えば、孫兵衛川のミジンコだとかそういうものを見た場合に、実際に見ると見えない、顕微鏡でのぞくと見える、あるいはルーペで見れば大きく見える、そういうのを体験して感動を与える、体験し、感動を与えて、それによってもう興味が出てきますから進んでいく。例えば、この数学のこれなんか理系で、そういうところが幾分か高いのです

けれども、こういう結果が出ているということは、私非常に深刻だと思うのです。ですから、新教育長決まって活躍できる場があるので、お願いしたいと思うのですけれども、子供たちに児童期、小学校まで、ぜひそのバランスのとれた文武両道といいますか、その辺のチャンスを与えてやる。力士とかもろもろのスポーツ選手、いらっしゃいますけれども、短いですよ。それで、現実に例えば15歳のスキーのジャンプ、そういうのを見ても、例えば葛西選手だとか長くやっていますけれども、非常に全体からすると短い期間であるので、また多くのそのスポーツ選手いらっしゃるけれども、ほんの一部なのです。だから、全体的にみんなが元気で気持ちよく将来にわたって生活できるためには、その基礎的なそちらのほうがもとで、体力はそれで普通のスポーツというか、勝ち負けにこだわらなくとも生活する上では、本当に勝ち負けにこだわって、例えば名誉町民の上武さん、小幡さんみたいになるとすると、非常に大変だと思いますけれども、ああいうふうに金メダルをオリンピックで2回取った、それはすばらしいのですけれども、全体の人生を考えたときに必要だと思うので、この自然を利用した、それに取り組んでいただければと思うのです。週に1度ぐらい、いかがなものでしょうか。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

今のような科学的思考や実験的な体験、論理的思考、そういうものにつきましては、学校が担っている役割の部分がすごく大きいのです。そして、教室だけでなく今学校は、理科の時間も、または全校的な行事においても、総合的な学習においても、外に出て行って、そして体で体験しながらいろんなことを学ぶということをたくさん取り入れて、邑楽町では特にやっております。例えば、川学習とか、白鳥オリエンテーリングですとか、いろんな平地林に出向いていろんなものを調べたり、そういうことを学校としてやっている部分が大きいので、週1のそういう科学教室みたいなのをやっても、子供が集まってくれるかなという不安はあります。というのは、スポーツ少年団などもそうですけれども、今子供は非常に忙しいのです。スポーツ少年団に入り、また塾に行き、おけいごごとをし、そして休みの日にそういう教室を持っても、なかなか集まってくれないのではないかと。忙しいところに子供をさらに追いやらないで、学校はその役割を邑楽町は果たしているので、社会教育の中でもその部分をふやしていきたいとは考えておりますけれども、そういう子供たちのそういうバランスは、図っていけるのではないかというふうには思います。子供が集まらないことには、やはり教室を開いてもとても難しいかなというふうには思いますので、その点ご理解いただければと思います。

以上です。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 その辺は、私個人的には誤解が非常にあると思います。先ほどもお話ししま

したけれども、勝ち負けというのは入りやすいのです。だけれども、そうでないものをしっかりやるということは、将来に向けて日本の今邑楽町見てもそうですけれども、企業が長続きしない、次に展開していけない、そういうのは、そういうものが原因している面もあるのだと思います。ですから、そういうものを、地道ですけれども、派手ではないのですね。だけれども、感動をさせる、現実に多々良沼もあるわけですから、そういうのをさせることによって、科学の芽は非常に芽生えると思うのです。そうすると、日本のこれからを考えても、やはり洋々たるものが私はあると思います。偏らないで、スポーツ、今お話ししましたこういうことを、塾だ何だということを考えると、そこでおしまいになってしまいますけれども、そうでなく、文系、理系、スポーツ系もろもろありますけれども、その辺をぜひ念頭に置いた社会教育の事業展開、生涯教育の中の社会教育、そういうことですから、していただければと思うのですけれども、いかがなものでしょうか。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 子供は、本当にバランスよく育てなければいけないというふうに思っています。そして、社会教育だけで子供を育てるということはできませんので、学校と、そしてそういう社会教育と、そして家庭と、いろいろな地域と、そういうところで育てていくものですので、社会教育の理科的な部分も頭に入れながら、これから考えていきますけれども、先ほど申し上げたように、子供の残された時間というのも少ないですし、本当に週1というのは難しい現状がございます。それで、邑楽町の子供たちは、夏休みが終わった後と冬休みが終わった後、基礎基本テストをやっているのですけれども、先ほどお嘆きのような数学的な思考が特に劣っているということはなく、データもありますけれども、一生懸命頑張っただけで力をつけているという現状がございますので、ご理解いただければと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ここに学校教育がございますけれども、やはり中野小学校が数学的なその方法を前面に出して指導している。非常にやはり成果が上がるのですね。やはりそういうことで、いろいろそのように取り組めば結果は出ますから、スポーツをやっているから時間がない云々ではなくて、スポーツを例えば7にして、残りの3をこういうものに回して、バランスのとれた大人になってもくじけない、バランスのとれた人間に育つように、ぜひ教育長が先頭に立って、どっちかすると文科系なのですか、ぜひ理科系もお願いしたいと思います。その辺について最後一言。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

残り3分になりました。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 経営要覧に書かれていたことだと思うのですけれども、研修というのは、それぞれの学校で、今うちの学校で一番欠けているものは何かということやっていくので、たまたま

中野小が、では算数をやろうということなので、どの学校もバランスよく子供を育てております。本当にそうです。それで、ご意見を参考にしながら、子供をバランスよく育てるということには、本当に大切なことですので、力を注いでいきたいと思っております。ご意見参考にさせていただきます。

○立沢稔夫議長 残り3分です。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 前向きなお答えをいただきましてありがとうございました。あのね、あのねなんて言っては申しわけないのですけれども、本当に中抜きができないのです。後ろにいらっしゃる方も多分そうだと思いますよ。途中を抜いたら先行ってもちんぷんかんぷんですから。だから非行になったり、いろいろ精神的に不安定になったり、暴力を振るったりというのも往々にして出てきてしまうわけなのです。そういうことがありますので、ぜひそのバランスのとれた子供の成長とこのことを願って、学校教育はもちろんですけれども、社会教育においても、バランスをとった、先ほどのすばらしいお答えのようにお願いしたいと思います。

きょうは、1時間30分ということで長時間でした。3課長には本当にご苦労さまでしたけれども、いろいろくだらない質問もしましたが、やはりこれが邑楽町の発展の礎になればと思ひまして質問させていただきました。どうもありがとうございました。

○立沢稔夫議長 これをもちまして一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○立沢稔夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす9日から14日までの6日間は議案調査及び各常任委員会開催のため本会議を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 ご異議ないものと認めます。

よって、明日9日から14日までの6日間は休会とすることに決定しました。

来る15日は、午前10時から会議を開き、平成24年度各会計の予算について審議を行います。

本日は、これにて散会をいたします。

〔午後 3時55分 散会〕